

新居浜市議会 市民との意見交換会 議会フォーラム 2018

開催報告書



平成 30 年 11 月 20 日（火）・ 21 日（水）

新居浜市議会

目 次

	ページ
1 議会フォーラム 2018 の概要	1・2
2 開催結果	<3~38>
11月20日 環境建設委員会	3~9
11月20日 市民経済委員会	10~22
11月21日 企画総務委員会	23~30
11月21日 福祉教育委員会	31~38
3 来場者アンケート調査	
(1) 11月20日	39~42
(2) 11月21日	43~46
4 資料編 (会場ホワイトボード)	47・48

1 新居浜市議会市民との意見交換会「議会フォーラム 2018」の概要

①開催目的

市民との意見交換を通して市民の多様な意見を把握し、政策形成に反映させるため、市民（団体）との意見交換会を開催する。

②開催概要 ※各常任委員会ごとに2日に分けて開催。

日 時 I 平成30年11月20日（火）19時～20時30分（環境建設、市民経済）
 II 平成30年11月21日（水）19時～20時30分（企画総務、福祉教育）
会 場 あかがねミュージアム 多目的ホール

③プログラム

11月20日（火） コーディネーター 愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

第一部 環境建設委員会

参加団体 新居浜市連合自治会

テーマ「都市計画道路の見直しについて」

- ・真に必要な道路は？

第二部 市民経済委員会

参加団体 新居浜市観光協会、新居浜市物産協会、新居浜観光ガイドの会

テーマ「観光振興について」

11月21日（水） コーディネーター 愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

第一部 企画総務委員会

参加団体 新居浜工業高等学校

テーマ「新居浜市の未来について ～若者の意見をきく～」

- ・新居浜市で働く上での課題

第二部 福祉教育委員会

参加団体 教育委員、小中学校校長会、学校運営協議会

テーマ「コミュニティスクールについて」

- ・地域の子どもたちを地域総がかりで育む体制づくり
- ・地域性を踏まえた特色ある教育の推進

④来場者数 11月20日（火）… 71人
 11月21日（水）… 84人

議会フォーラム2018

4つの常任委員会と関係団体との意見交換会



市民の皆さんの多様な意見を把握し、市政に反映させるため、各種団体との意見交換会を行います。参加自由ですので、多くの方のご参加をお待ちしております。

コーディネーター：愛媛大学社会連携推進機構 前田 眞 教授

会場：あかがねミュージアム多目的ホール

新居浜市議会市民との意見交換会

環境建設・市民経済委員会

日時：11月20日(火)
19時から20時30分

協議テーマ：

I 都市計画道路の見直しについて

- ・真に必要な道路は？

新居浜市連合自治会

II 観光振興について

(一社) 新居浜市観光協会
新居浜市物産協会
新居浜観光ガイドの会

企画総務・福祉教育委員会

日時：11月21日(水)
19時から20時30分

協議テーマ：

I 新居浜市の未来について

～若者の意見をきく～

- ・新居浜市で働く上での課題

新居浜工業高等学校

II コミュニティスクールについて

- ・地域の子どもたちを地域総がかりで育む体制づくり
- ・地域性を踏まえた特色ある教育の推進

教育委員

小中学校校長会

学校運営協議会

お問い合わせ：新居浜市 議会事務局議事課 0897-65-1321

2 開催結果

議会フォーラム2018は、2日間実施し、合計で155人が参加した。

議会フォーラム2018議事録

日時 平成30年11月20日(火)19時～
場所 あかがねミュージアム多目的ホール



■司会 市議会議員 田窪 秀道

■開会挨拶 市議会議長 加藤 喜三男

<第一部 都市計画道路の見直しについて>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【パネリスト】 ※敬称略

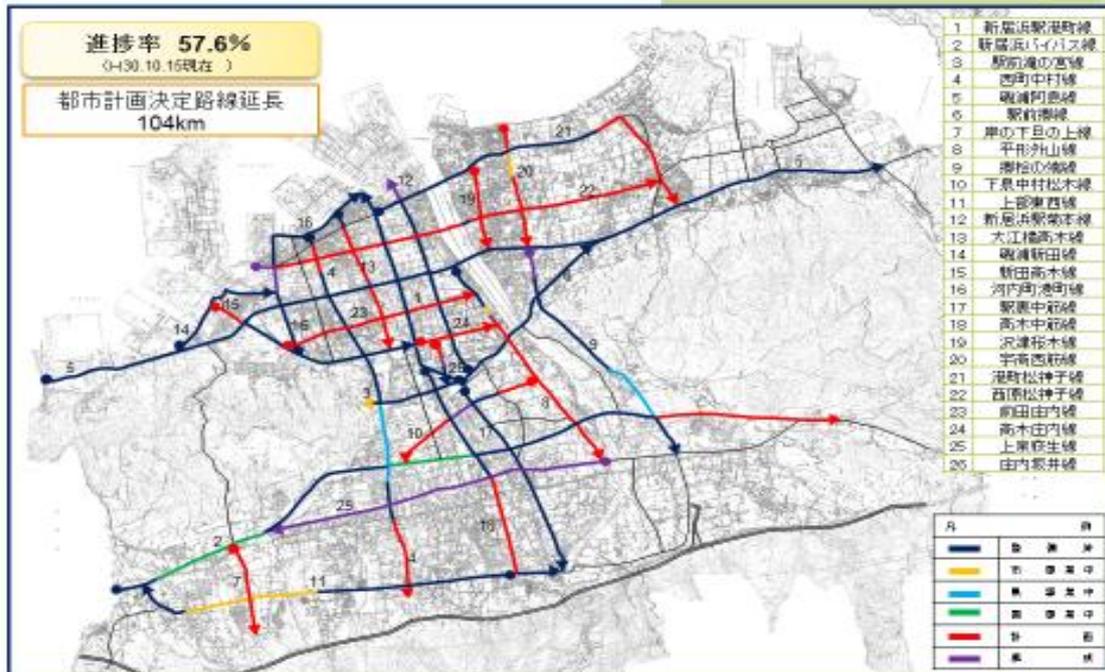
(環境建設委員会)

- ・篠原 茂議員(委員長)
- ・伊藤 謙司議員(副委員長)
- ・仙波 憲一議員
- ・佐々木文義議員
- ・岡崎 溥議員
- ・米谷 和之議員

(新居浜市連合自治会)

- ・新居浜市連合自治会長 日野 幸彦
- ・金栄校区連合自治会長 坂本 安孝
- ・高津校区連合自治会長 高橋 成一
- ・中萩校区連合自治会長 三並 保
- ・大生院校区連合自治会長 近藤 博

●都市計画道路の整備状況



フォーラム記録

●篠原議員<委員長主旨説明>

新居浜市の都市計画道路は、昭和14年に都市計画をして以来、人口増加、都市の拡大、自動車の普及による交通事情の変化等、その時代の社会情勢に対応すべく新たな道路の都市計画決定や変更を行ってきた。しかし、近年の少子高齢化社会の進行、厳しい財政状況や都市を取り巻く環境の変化など、決定から70年以上も経過しているにもかかわらず長期未着手となっている路線や、都市計画決定時の必要性が変化しつつある路線が存在している。本市では、都市計画道路見直しを検討しているが、市民の皆さんの声を聞き、一緒に考えたいと思う。なお、新居浜市の都市計画決定路線の総延長は、104キロメートル、現在の進捗率は、57.6%である。



○前田教授

これから都市計画道路について進めていこうと思うが、移動しやすい道路、使いやすい道路などの観点から意見をいただきたいと思います。

●日野会長（新居浜市連合自治会）

市民としては、早く100%完成にこぎつけていただきたいと思うが、なかなか難しい問題だと思う。ぜひ重点的にどうしてもここが必要と思うところを皆さんで考えていただいて、早期の実現をしていただきたいと思う。

○前田教授

具体的に今道路を使っている、不便であるとか、問題点があれば、意見を出していただきたい。

●日野会長（新居浜市連合自治会）

5番磯浦阿島線は新居浜市の東西の幹線道路であるが、多喜浜の自宅から新居浜駅に行くときに難しい。16時45分くらいから18時くらいまで、渋滞で動かない。タクシーの運転手に駅まで乗りたいといっても時間どおりに着くことはできないと言われるのが現状であり、それほど混む。工業団地はもちろん、四国中央市からどんどん流れてくる。国道11号線が混むから、下の方に全部流れてくる。神郷の交差点からは、何とか市役所の方には行けるが、駅の方には行けないというのが現状である。副線があればいいが、副線はない。副線といたら、22番西原松神子線であるが、田の上のところはものすごく狭く、対向車がきたらどうにもならない。これをなんとかいい方向づけをしていただければ、ありがたいと思っている。

●岡崎議員

田の上に住んでいるが、22番西原松神子線が都市計画道路でありながら、宇高あたり

は広がっているが、あとは狭い。拡幅してきちんと整備する必要があると思う。旧市内は網の目のようになっているが、川東に限らず、上部も南北の道路が非常に少ない。提案だが、川東では、宇高中郷線を設定するという必要でないかと思われる。昭和通り、敷島通り、平和通り、駅前郷線が全部つながり、市役所通りの混雑を緩和することができるし、救急・防災・災害対策上も非常によくなると思うので、その点を提案したい。4つの東西線を結ぶことができる。

○前田教授

東西の道路の話が出てきて、南北の道路の話が出てきた。地元で道路を使っている皆さんで、上部や川東とか、南北の路線があったらいいなというのがあるが、緊急度を考えるときに、地元はどうか。

●高橋会長（高津校区連合自治会）

22番西原松神子線と20番宇高西筋線が交差しているところが、今新居浜で一番、交通事故が多いところである。狭い上に、見通しがきかない状態で、事故が起きている。20番宇高西筋線は、高津小学校の前の道路であり、小学校で防災訓練をする際、消防自動車呼んだが、大型自動車は通れず、小型自動車に変更したりした。またバスも入りにくい。高津小学校自体は、避難所になっており、災害の時には、物資を運んでもらうための、入る道がなかったが、一部事業がされることになり、校区連合会の要望が通った。完成までに5年くらいかかる

そうだが、うれしく思う。また9番郷線の端線も部分的に広くなったり、狭くなったりしているの、両方から大型車が入れるような道にしてほしい。

○前田教授

生活を支えていく、事故を少なくする、緊急車両が入れるようにするとかという、20番宇高西筋線と22番西原松神子線の交差点や、20番宇高西筋線などの話が出てきた。もっと普段の生活の中で、考えつくような路線はあるか。



●日野会長（新居浜市連合自治会）

20番宇高西筋線は車の利用量が多く、離合ができず、私も事故を起こしそうな目にあった。新居浜市は、線路で分断されて東西、南北の道路がない。行き来があって、上部、川東、川西の交流があるので、早く整備してもらいたい。道路網の整備によって、都市が発展する。

●坂本会長（金栄校区連合自治会）

4番西町中村線については、滝の宮まで整備が終わっている。そこからバイパスまでは、7年くらいかかるという話を聞いている。アンダーパスになり、費用がかかるのはわかるが、西条市から入ってきて、最初

に曲がる道なので、非常に混雑が続いている。道がきれいになると、車も多くなるのはわかるが、早く整備してほしい。また南北道路の追加もできれば、ありがたい。滝の宮公園のリニューアルの話も出ており、公園にも、だんだん人が来ることになるので、通行量が多くなるという現状があるので、金栄校区としては、そういうところが懸念しているところである。

○前田教授

何もかも早くという話にだんだんなってしまふということはわかるが、少し重要なところや大切なところから進めていくという話があるかなと思う。ハード整備をするだけでなく、ソフト対策も含めて今後考えていかなければならない部分があると思うが、議会側から、もっとこんなことを考えるべきだとかあるか。



●仙波議員

基本的に一番困っているのは、県道と市道の割合である。皆様から要望が多いのは、県道の話である。都市計画と道路が合っている部分、合っていない部分がある。確かに昭和14年当時は、車の台数は少なく、車も小さかったということがあるが、現在で

は車も大型化している部分がある。基本的に道路幅は、道路周辺の方々の協力がなければ、なかなか進まない。道路が行きどまりになっていたり、塀があつて動かないということもあるかと思うが、皆様の協力が必要であると思う。特に南北になるとほとんど県道の話で、我々も県にお願いしている段階である。それだけで遅れているということではないが、そういう協力関係がうまく進むかによって道路の進捗は変わっていくのかなと思っている。

○前田教授

市だけでは、なかなかできないものがたくさんあるかなと思う。そういうことを少し考えていくと、必要だという機運を盛り上げる、そういう道路が早くいるんだという声がたくさん上がってくることが大事かなと思う。道路のネットワークの話をしてきたが、道路はつながって一つのものになり、ネットワークを大事にするために路線をどのように整備するのかという話が出てきた。もう一つは、道路の使い方、昔の計画と今の使い方は少し変わってきている部分があるかなと思う。これから人口が減少する社会に入っていったときに、車道や歩道をどう考えていくかは大事な要素になると思う。道路の使い方を考えた時にこんなことがあるのではないかということがあれば、意見をいただきたい。

●坂本会長（金栄校区連合自治会）

駅前地区で、道路が広がって歩道ができ、高齢者は横断する間に、信号が変わるとい

う話があった。信号が短いところが何か所かある。そこは、信号のタイミングを含めて、よく考えてもらいたい。

●日野会長（新居浜市連合自治会）

国道 11 号線を中心とした東西の道路は完全に整備されていない。その件について、上部の方から意見を聞きたい。

●近藤会長（大生院校区連合自治会）

大生院校区は、2 番新居浜バイパス線が拡張されており、平成 31 年 3 月までに完成するが、東西が 2 本しかなく、国道 11 号線には、高速道路を通らないトラックが多く走り、朝晩混雑している。11 番上部東西線は、山根大通りまでできており、事業中の 2.2 キロメートルを早く進めていただければ、新居浜市で勤める方が、迂回して市内の会社に行けるといふこともあるので、だいぶ緩和されると思う。

●伊藤議員

工事が進まないというところで、将来の交通事情を考えていかなければならない。高齢化が進んでいくので、どういった道をつくるのか。今、自転車で通勤される方が多いので、車で通勤する人を減らして、自転車通勤にもっていくほうが。ハード面を備えるというのは、これだけの要望を全部行くと、10 年、20 年かかる。20 年もたつと、車に乗る方は、だんだん減って行って、歩く方と自転車の方が多くなる。今はどちらかというところ、車優先で道をつくっており、車道があつて、自転車の専用道路があり、歩道があるが、頭を切りかえて行って、新居

浜プランを考えて、車道よりも自転車道を大きくするとかに変えていく方が、交通の渋滞は緩和されていくのではないかという気がする。今から道をつくる場所では、どちらかというところを、中心に考えていったら早いのではないかなという気がする。



○前田教授

新しい提案があつたが、交通の分担を変えるという話があつた。車だけに頼るのではなく、もう少し人に近い、自転車に切りかえていくことが道路の使い方としてはあるかもしれないという提案があつた。生活を変えていかないといけないという部分があるが、新居浜は自転車都市で、自転車が盛んな町というイメージがあるが、そのあたりはどうか。

●三並会長（中萩校区連合自治会）

自転車は、高校生くらいしか見ない。中萩は 2 万人の人口を抱えているマンモス校区であるが、朝、一般の方で自転車に乗っている人に会うことは少ない。上部地区は船木から泉川、角野、中萩、大生院と、新居浜市の人口の約半分、6 万人弱の方が住んでいる地域である。道路事情ということで、

南北はある程度整備されており、11番上部東西線が平成36、37年には完成する予定であるが、東西に逃げ道が全くない。国道バイパスで本当に渋滞が緩和されるのか、朝晩通る方は、身をもって経験されていると思うが、渋滞で動かない。朝は、東行きは、西条インターよりかなり西から混んでおり、西行きもかなり混んでいる。現時点では、上部東西線をしてほしいということと、旧街道、昔のへんろ道が国道と並行してあるが、ここを通る車がかなりある。小学生が登校しているが、雨の日は大渋滞になる。幅員が約3メートルしかないのが、狭い。中村地区の方は、車両通行止めになっているが、萩生地区から登校する子供は、そういうことが全然ない。できれば、部分的なところでいいので幅員を広げてもらうよう、早急に対処してもらい。また中萩公民館からちょっと西に行ったところの道であるが、3.2メートルから3.3メートルしかない道路を離合できるようにお願いしたい。

○前田教授

全線整備が難しく、退避的な部分を少し整備するとかいろいろなやり方があるかもしれない、工夫がいるかなと思う。

●米谷議員

私も上部に住んでいるが、図面を見ると町なかに抜ける南北の道、バイパスであったり、市が事業中の都市計画道路は早く整備してほしい。上部に住んでいる方は上部の道、川東に住んでいる方は川東の道ということになるから、その辺のところは、担当

課で道路の交通調査をしていると伺っているので、そういうものを加味して、ある程度、道路の優先度をポイント化していくことも必要でないかと思う。都市計画道路ということは、主要道路になるので、どうしても車中心になるかと思うが、車中心になると歩行者には厳しいものになり、歩行者中心になると、物足りないものになる。その辺のところは道の目的によってメリハリをつけると、整備の仕方が変わってくると思う。道の性格によって、一方通行にするとか、小学生が通る間は、通行どめにするとか、なかなか市民の力だけではできないが、道路の使い分けというようなことも、これからは考えていかなければならないのではないかと考える。

まとめ

○前田教授

道路は、あれば越したことはないかなと皆さん思われると思う。ただ時間もお金もかかるということもある。やっぱり重要なところから先にやっていくという話がある。何が大事なのかを少し見える化をしていく。先ほどもポイント制という話が出たが、わかりやすい形で整理されていくと、どこからやるべきか少し見えてくる。車中心の道路はこれ、歩行者優先の道路はこういう部分というメリハリを考えていたり、整備するときに、いきなり全線が難しいのなら、退避場などをつくりながら、一部広がって、一部狭いような整備も場合によってはあるかもしれないと思った。もう一つは、暮ら

し方で、環境対策と盛んに言われている。
CO₂削減も盛んに言われていて、電気自動車や水素自動車とかの話が出てきたりしているが、そういう意味でCO₂削減につながるような暮らし方を。数が少ないかもしれないが、自転車専用道路をつくっていくとか、道路規制で考えていくとか、今は画一的な整備の仕方ではなく、少し知恵が入るような道路のつくり方、使い方ができればいいかなと思った。本当に暮らしやすい町にするために、基盤は大事な部分だと思うので、いろんな知恵が集まればいいなと思う。これで終わりたい。

議会フォーラム2018議事録

日時 平成30年11月20日(火)19時50分～

場所 あかがねミュージアム多目的ホール

<第二部 観光振興について>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【パネリスト】 ※敬称略

(市民経済委員会)

- ・小野 辰夫議員(委員長)
- ・永易 英寿議員(副委員長)
- ・山本健十郎議員
- ・伊藤 優子議員
- ・藤田 幸正議員

((一社)新居浜市観光協会)

- ・会長 近藤 嘉郎
- ・副会長 船越 豪晴

(新居浜市物産協会)

- ・会長 白石 尚寛
- ・副会長 越智 秀司

(新居浜観光ガイドの会)

- ・会長 石川 潔

■閉会挨拶 市議会副議長 豊田 康志

フォーラム記録

●小野議員<委員長主旨説明>

政府においては 2030 年までに観光客を 6,000 万人にしようという目標を立てている。毎年国内において、諸外国からの観光客が増加している中で、本市においては非常に企業型宿泊者が多いと伺う。本市には太鼓祭りや、別子銅山文化遺産などの有望な観光資源が多くある。そういった観光資源を含め、いろいろな分野の方々と問題点等意見を伺い、観光客増加につなげることができないか考えてみたいと思う。

○前田教授

新居浜の観光振興をどう進めるか。観光振興の結果、何が見えてくるかということ、観光客が増加、あるいは観光に関する収入が増加するということになるが、それを目指してこれからどのような取り組みをしなければよいかということ今回話し合いたいと思う。本日来られている団体の皆様から観光の現状やお考えをご発言いただけたらと思う。

●近藤会長（新居浜市観光協会）

当市と同等の人口規模の所では、観光客が非常に多いのが道の駅や海の駅で、他の地方では流行っている所もある。そのあたりの見直しもできたらいいと考えている。

○前田教授

新居浜はものづくりの町としてとても有名であるが、観光で言うと最近では東洋のマチュピチュが人気を博しているように思う。そのような観光資源は他にどのようなものがあるか。例えば先ほどの道の駅や海の駅

という話があったが、それ以外にも少しご披露いただけたらと思う。

●船越副会長（新居浜市観光協会）

新居浜市の観光と言えば、別子銅山の産業遺産群が大きな観光資源だと思う。それと新居浜太鼓祭り、工業都市、ものづくりの町の工場群が観光資源となるのではないかと考えている。その中で別子銅山の産業遺産群の観光の中心としてマイントピア別子があるが、ここ 10 年程度で年間 26 万人だった観光客入込数が年間 70 万人以上に、2.5 倍以上に増加している。しかし残念なことに、このお客様はあまり新居浜市内を周遊していない。滞在型になっていないというのが大きな問題ではないかと思っている。

○前田教授

マイントピア別子には 70 万人もの観光客が訪れるが、市内を周遊しないところが課題としてあるという感じである。他に、お土産も含めて資源があれば聞きたい。

●越智副会長（新居浜市物産協会）

山の観光資源もあるが、海には大島が観光資源としてある。日本で 2 番目に小さな大島である。船で 15 分、大人 120 円、子供 60 円で往復できる位置にある。周囲が 9 キロメートルから 10 キロメートルあり、サイクリングで約 1 時間 30 分程度のコースである。もう五、六年になるが、大体土日祝祭日にレンタサイクルをやっており、コース案内する人も用意しているがあまり来てくれないのが現状である。これからシーズンオフになったらなおさらである。特に最近

思うのは、昔は自然の家みたいなもので1泊していたが、この頃地元の方は大洲市や西条市の自然の家に行っているようである。まず、もっと地元をわかってほしいということ市議会の皆さんにもお願いをしたい。種子島の安納芋に匹敵する七福芋というのが大島にある。15度近くの糖度があるすごくおいしいものである。新居浜には太鼓祭り、干しエビ、そして白芋があり、これらをもっと活用して、我々のお菓子の業界でももっと売り上げを伸ばしていきたいと思っているが、来年開催されるさんさん物語などを活用して広げていきたいと思うので皆さんのご協力をお願いしたい。



○前田教授

そのあたりの協力はどのようなものがあればよいとお考えか。

●越智副会長（新居浜市物産協会）

トイレは立派なものがあったのだが、大島はどこに行くにも標識が無いので、コースや史跡がわかるような標識をお願いしたい。

○前田教授

今いろいろなところで、市民グループなどが自分たちで看板をつくるなどの活動をしているところもあるが、そのようなことも

含めて、大島でそういうことができたらいと思う。また、特産品の七福芋や干しエビを活用したいとお話があった。なおかついろいろな資源、海の駅、道の駅、別子銅山、お祭り、工場群、自然の家の復活。そのあたり議会側としてはどうか。

●伊藤議員

新居浜市の観光については、割と新居浜市の人知らないことが多いと感じている。先日、ボランティアでごみ拾いに行き、海の駅ではないのだが、そこでキャンプをしている方がいたり、ビーチバレーをしている方がいた。私たちがバーベキューをしたりしていたのだが、少しPR不足を感じている。マイントピア別子にしても産業遺産にしても、東洋のマチュピチュにしても他市の方が気づいて、すごくいい所だと思ったと思う。市内の人にも知っていただくことが非常に大事だと思う。

●近藤会長（新居浜市観光協会）

おっしゃるとおりで、先ほどのお話はマリパークのことだと思うが、マリパークは海の駅に指定されており、私も年間何度もキャンプに利用するが、テント1張り500円で利用できる場所は四国全部を探してもそれほどない。海でも遊ぶことができ、子供たちが遊ぶ遊具もある。そして何より女性にうれしいのは、トイレがきれいに整備されていることだと思う。本当にPR不足だと思うので、少し力を入れて頑張っていきたいと思う。

○前田教授

市民の人も含めてPRするとすれば、どのような形でPRすればもっと広まるかというのがあるかと思うが、最近はSNSやインスタグラムで綺麗な写真を撮って発信するとか、パンフレット作成、インターネットを使って発信するなどがあり、うまく伝えていくことができればいいと思うがそのあたりどうか。

●石川会長（新居浜観光ガイドの会）

お客様に観光案内をしている立場から言わせていただくと、先ほど船越副会長からお話があったが、別子銅山といっても旧別子から四阪島まで40キロメートルもある。別子銅山といってもマイントピア別子、端出場と東平、旧別子がある。そして今年11月1日にオープンされた星越にある日暮別邸記念館がある。住友の産業遺産もあるし駅もある。整備が進められている西洋社宅や住友鉱山所長宅などもあり、そういったところも案内には入っていくだろうと思う。今トイレの話が出ていたが、私も旧別子銅山、日浦から東平越えを年間12回から13回案内している。そうするとそこで一番困るのは電話が通じないことである。山を越えて新居浜側に来ると電話が通じるのだが、海拔1,000メートルから1,300メートルくらいまでは全く電話が使えない状態になる。改善されれば非常に便利かと思う。今までやってきた中で事故はないが、そういった点は今後考慮していくべきではないかと思っている。

○前田教授

電話が通じないことが逆に売り物になる売り方もあるかと思うが、確かに事故の時にはさすがに連絡体制が必要というのはある。そのような意見があるかどうか。

●永易議員

電話が一部通じない点と、新居浜市の観光振興計画を平成30年3月に策定されているが、観光に来られる方もインターネットを通じて新居浜を訪れる方が一番多いということで、インターネットを頼りに新居浜に来られた方というのはおそらく現地でもインターネットを見られるので、Wi-Fi環境と電波状況は、マイントピア別子の施設でも一部通じていない所もあるので、通信環境の整備は観光客を迎え入れる上では大事なことだと思う。

○前田教授

最近はフリーWi-Fiがあちこちで整備されていたり、インバウンドで外国からの観光客の方がインターネットを利用して町なかを歩いていくような話もあるかと思うので、あればいいと思う。

●船越副会長（新居浜市観光協会）

マイントピア別子では、11月から施設全体でWi-Fiを通じるようにしており、インバウンド受け入れ体制ということで、新居浜で初めての免税店にもなっている。また、カード決済もできるようにしてあり、インバウンドの受け入れ体制に取り組んでいる。

○前田教授

もっと市内に広がっていくのも大切かと思う。

●船越副会長（新居浜市観光協会）

日暮別邸が移築されたということで星越地区が注目を集めることになっていくと思うが、観光客がこのあたりの地区も行き、マイントピア別子にも寄るといような相乗効果があるような形で、お客さんが行きやすいような仕組みづくりが大切。マイントピア別子では、お客さんに電動自転車で周遊してもらおうということで、レンタサイクルを実施しているが、山の上であるため、なかなか借りる方は少ないのだが、市内にそのような施設をふやすことで、観光に来られた方が自転車で周遊するといようなこともいいと思う。

○前田教授

どのように実現していくかを考えた時に、自転車の空間を町なかでどのように利用していくか、ということもあるし、ガイドとして自転車で一緒に走ってくれる人がいるかないか、とかもあるかと思う。一緒に走らなくても、ポイントポイントにガイドの方がいて、その場所に行けばガイドしてくれるというのもやり方としてあると思うが、そのあたりどうか。

●伊藤議員

物産協会と観光協会が協力してスタンプラリーのようなものを何か所かつくって、その場所に行けばお土産をもらえるようなことを考えてはどうか。結構スタンプラリーしている方は熱心にされている。起爆剤としてどうか。

○前田教授

全部回ったら何がもらえるのかというのもあると思うが。

●伊藤議員

そこは、行政の方に頑張ってもらって。

●船越副会長（新居浜市観光協会）

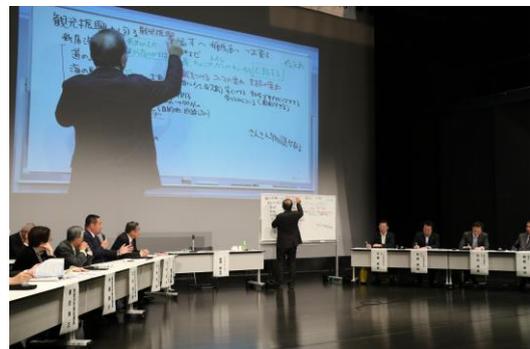
観光協会で、市内を回ったらスタンプを押すということはしていた。それと別子・翠波はな街道ということで、四国中央市に行く道についてもスタンプラリーをしている。また、個別に別子の産業遺産を巡らうということで、施設の中でもスタンプラリーをやっている。

●永易議員

スタンプラリーもよい意見だと思うが、やはり宿泊者が少ない。また、買い物客も松山、高知に流れてしまうので、日帰りではなく、ライトアップするなどして夜型のメニューも考え、夜の時間に観光いただけるメニューをうまく皆さんと開発できれば、必然と宿泊客もふえるのではないかと思う。

○前田教授

夜型のメニューとして具体的なものは何かあるか。



●永易議員

私が思うに、新居浜の住友関連の工場群を

川東の方から見るとか、期間を限定して定期的に遊覧船を出すとか、または既にされているところもあるが、観光施設マイントピアや日暮別邸記念館など期間限定で普段見えないところをライトアップしてお得感を出すとか、この時期にしか見えないということインターネットなどで発信していけばいいと思う。

●小野議員

新居浜には太鼓祭りという観光資源があるが、太鼓祭りで約 18 万人の観光客の方が来られている。その時に一番観光客が多いのが山根公園であるが、お土産コーナーがないのでバスで来られてお土産をどこかで買われるのだと思う。東横インができたことにより新居浜の宿泊施設が 1,800 室となったが、約 18 万人の観光客には対応できない。いずれにしても新居浜市にお金を落とすのではなく、特設会場やお土産コーナーを設けるなどして観光客の方にお土産を買っていただくと、そのようなこともプラスになると考える。

●船越副会長（新居浜市観光協会）

太鼓祭りの山根グラウンドでのかきくらべは 10 月 17 日に開催されるが、その際、マイントピア別子までの道が通行どめになる。そのため、観光客の予約が入ってもキャンセルするとか、一般の方が来られないという問題があるので、以前から改善を要望しているがなかなか難しいところもある。新居浜の太鼓祭りは四国三大祭りということで人気が出てきているが、新居浜市を P R

するには太鼓祭りをもっともっと P R していくのがいいと考える。それと、宿泊施設の話が出たが、私が思うのは例えば別子ハイツからマイントピア別子の間の立川地区や大島地区に今空き家がたくさんあるが、そういった民家を利用して宿泊できる、新居浜をよく知っていただき、ホテルとはまた違う宿泊ができるということで、将来そのような方向を考えていくのも面白い。大島はすごく歴史のある島で、村上水軍の話や遺構など島を散策するとゆっくり歩いても 3 時間で回れる。いろいろな体験もできるし、観光としては非常に面白いと思う。それに加えて近くの黒島の妙正寺に妙正寺桜という珍しいものがあったり、工場群や塩田跡がある。工場見学などもその中に入れて、なおかつ東港にクルーズを誘致するなどやはり受け入れ体制をつくる意味で、観光に力を入れると面白いと思う。夜景については、例えば大島に宿泊した方が夜船に乗って工場の夜景クルーズをするとか、船に乗って魚釣りなどいろいろなことができると思う。そのようなことをいろいろ考えていくと産業遺産が一つの面であって、大島近辺、塩田跡、工場群、港これを一つの面として、二つの面で攻めていくと結構新居浜は観光でにぎわうような気がする。

●山本議員

観光振興を図るということで、このような話ができるのは昔の新居浜では考えられない状況であった。私が議員になった昭和 62 年当時は、マイントピア別子や東平のトロ

ツコ列車など、行政がいろいろなアイデアを出した時代で、その後マイントピア別子ができ、今では新居浜の観光は太鼓祭りと言います。大島も先ほど話があったが、以前は大島で観光行政をやろうという動きもあったが、残念ながら一周道路がつかなかったということもあり、行政の不備も大分あると思う。これだけの方が集まって観光振興を考えられるところまで新居浜市がきたわけである。以前、中萩小学校に広瀬幸平さんが建てた講堂や体育館や職員室があったが、それを当時は無知であったため全て壊してしまった。私は以前松山市の助役に、マイントピア別子をつくるのはすごいと言われた。要は太鼓祭りくらいしかなかったものをここまでできたのだから、これは行政の足りない部分は民間にやっていただきながらも行政が前に出てやっていかなければならないと思う。

○前田教授

積極的に今あるものを活用できればいい。

●白石会長（新居浜市物産協会）

新居浜の産業遺産、特に最近では見て回る部分が充実しているのだが、その中で今、体験型というのが非常に注目を集めており、大島はともすれば非常に不便で、標識もなかなか整備されていない部分はあるが、おいしい魚やおいしい農作物が採れ、そういう体験型を絡ませて市、市議会とタッグを組んでPRできればいいと思う。あと、お土産コーナーが非常に少ないというところがある。物産協会としては物産パンフレッ

トを作成してPRはしているが、なかなか浸透しない。今新居浜市の方でカテゴリ別のパンフレットをつくってくれていて、新居浜に来られた方は何が名産なのかわかりづらいという話をよく聞くので、いろいろなものがあるというのは結局何があるかわからないという状況につながっていると思っており、ふくざくマップ、ざんきマップをつくってくれているところである。そういったパンフレットと連動させてスタンプラリーをしてみたり、新居浜と言えばこれ、この店というのがたくさんあって、どの店もおいしいというような全体で周遊してもらえるような観光振興に結びつけていければいいと感じている。

○前田教授

すごくたくさんのものである。一つ一つの固有名詞が大切になると思う。ざんきやふくざくとか。七福芋を使った商品というのは何かあるか。

●越智副会長（新居浜物産協会）

7年前くらいになるが、新居浜商業高校と別子飴本舗でコラボした大福であったり、永久堂のいほまそだちであったり、七福芋蒸し羊羹というものがある。ちょうど明日、テレビのひめぼんという番組で、新居浜の大島の宣伝と七福芋蒸し羊羹が特集される場所である。マイントピア別子やアサヒビール、タオル美術館などバスの日帰り旅行が盛んであるが、市内では、日暮別邸記念館、あかがねミュージアム、マリナーパーク、池田の池のしょうぶ園などを回る

が、池田の池はバスが入れない、またあかがねミュージアムもバスが停められないということで、交通整備ができれば非常に助かると思う。新居浜市内で1日お金を落としてもらえるコースをよく聞かれるのでぜひ整備していただきたいと思う。

●山本議員

12月2日にあかがねマラソンを開催する。昨年も開催したが、今回はハーフマラソンということで42.195キロメートルの半分の距離を予定しており、清滝まで行くコースである。市内、市外、県外から1,600の方が参加される。物産協会やマイントピア別子には非常にお世話になっているところであるが、新居浜市のイベントもそうであるが、コンベンションのような形で新居浜市へ誘致をして、宿泊施設もまずまず整ってきたわけであるから、市、観光協会が一緒になってやっていけばいいと思う。



○前田教授

連携できればいいと思う。特に今度のさんさん物語を目指して連携してやるということができればいいと思うが、そのための目標をどうつくっていくかというのがあるかと思うが。

●石川会長（新居浜観光ガイドの会）

私たちはマイントピア別子を中心に観光ガイドを行っているが、問題は人の養成である。つまり新しいガイドを育てるということだが、毎年6月、7月に1回、今年で5回終了したが、やはりいい人材を多く求めたいということで、いろいろなところに観光資源があっても案内人がいなければわからないものである。今17人しかいないので、少なくとも24人から25人にしたいので、市職員の方や市会議員の皆さんもガイド養成に力を入れていただければ非常に助かる。

○前田教授

去年このフォーラムで新居浜南高等学校のユネスコ部が参加され、東平においていろいろガイドされている学生の方のお話を聞いた。ああいうことをやっていると地域に対する愛着がすごく高くなり、彼女彼らたちの話を聞くと大学などで外に行っても帰ってきたいという話もたくさんあった。そういう意味では、本当に地域のことを知るといのは大切であると感じた。またそれを伝えることにより身につけ、自分事化できる。そういういい見本が新居浜にはある。ぜひそういう形で若い人も巻き込んで広がっていけばいいと思う。いろいろなことを伝えないと分からない、理解できないものもたくさんあるのだろうと思う。

●近藤会長（新居浜市観光協会）

人が足りないということと、さんさん物語まで時間がない。看板なども非常に大切であり、他県で非常に成果が出ているやり方

だが、京都の神社やお寺巡りの時にはQRコードを何カ所かに置いてあり、それに観光客の方が携帯をかざすと、人がいない時にでもその場所についてわかる。そして外国語も使えるのでインバウンド対策にもなる。そういうのを導入するとお金をかけずに宣伝もできると思う。一番いいのは人に説明してもらうことだが、人がいない時間帯もそれがあるとフォローできるのではないかと思った。

●永易議員

日暮別邸について話が出たが、その南側の星越エリアも今後新居浜市が整備を進めていくところであるが、先ほどのお話にもあったように、現在行っても説明書きとかは何もない。産業遺産の地図などがあればと思うが、QRコードがあれば、夜でも行けるので非常に良いアイデアだと思う。早速整備していかなければいけない課題だと思った。

○前田教授

環境整備があればチャンスが増えていくことはあると思う。

一般からの意見

●一般人（男性）

某議員からご案内いただいてこのような会議があることを初めて知った。新聞紙上では議会報告も兼ねたという話であったが、来られている方を見ると市議会議員とパネラーと市役所の関係者が多いと思う。私は企業に勤めているが、企業にもPRはきていなかった。このような会であれば何人か

誘うこともできたのだが。一部の方がやっているような印象を受けたが内容自体は非常に素晴らしいことである。私は大島出身であるが、大島のことをこれだけ一生懸命議論していただいて、島民のひとりとして感謝申し上げる。ただ、島民の方はそこまでの意識になっておらず、高齢化も進んでいる。大島公民館と大島小学校を島民が望むのとは違ったような役割で市が考えているような一面もある。もう少しPRの仕方、シビックプライドという言葉がはやって久しいが、こんなにいい新居浜市をなんとか多くの方に見てもらいたいという以前に、市民の方が自分の住んでいるところの良さを知らないのではないかと思う。商工会議所では新居浜市をよく知ってもらうための試験を年に何回か実施しており、勉強してもらっているようだが、それが本当に市民の心に入っているのかというとなかなか難しいのが現状ではないか。特に新居浜市は共働きの多いので市民に心の余裕がないという一面もあるかと思う。どうかこういうフォーラムを通じて多くの方に知ってもらい、新居浜市を良くして、新居浜市に住んでよかったと思っていただけるように今後このフォーラムが展開できることを感謝と同時にお願いしたい。

○前田教授

いろいろな形で伝えていくときに、何を伝えていくのかということを考えながら伝えていかなければならない部分もあるかと思う。大島で暮らしている人の生活も含め、

人が大島に行くことはすごくいいことだが、それが島の人たちにとってどういう意味があるのかも少し考えていくというのも大事なことだと思う。ちょっと自分のことで恐縮だが、しまなみ海道で自転車モデルコースをつくる事業にかかわったことがある。その時に県や国が決めた自転車道というのは路線だけで、島の人にとってみたら余り関係ないところに路線があるという話があって、自転車はどちらかという島の人にとって邪魔なものだった時期がある。早く走行して危ないなどの話があったが、その自転車モデルコースづくりをしたときに、島の人たちにとって自分たちが一番見てもらいたいものは何か、体験してもらいたいことは何かということ島ごとに出し合ってもらった。さらにそれをどういうふうルートにするか。そのときに考え方があって、季節ごとに回れるようなコースを考えようとか、午前中3時間で回れるコースをつくらうとか1日かけて回るコースをつくらうなど、島の人アイデアでコースをつくって、それをアピールしたということをやったことがある。そうすると島の人たちにとっても自転車がなんとなく自分事化する。そしてそのコースを島の人たちと一緒に自転車で走ってみた。そうすると砂がいっぱいあって危ないから掃除をしようというような動きになったり、ここで休憩したいよねというような話が出たりして、自分の家に来てもらったらお茶のサービスくらいするよなどということが意見として出て

くるようになった。自分事化することによってそういう環境が生まれてくるということがあると思う。外から見ていると思うことだけではなく、島の人意見もちゃんと聞いて、それらをつなぎ合わせるような考え方がこれからの観光を考えた時には大事なところかもしれないと思った。観光の周遊、回遊しやすいルートをどう考えるかというような話はいろいろな人がいろいろな考え方でいろいろな関心に基づき回るコースが100人いたら100通りの回り方があってもいい。そういうことを支えていける仕組みはどんなものだろうかということも考えていければいいと今話を聞いていて思った。知恵を出せば乗り越えられるというものもあると思う。



●一般人（男性）

別子山の話もちろちら出たが、別子山のことを議員さんや市の職員の方に知っていただきたい。知らないとならPRもできないのではないかと思う。先週土曜日の新聞に出たツガザクラだが、国の天然記念物指定の告示を待つのみとなったのだが、実際にツガザクラを見たことある議員さん、市職員の方はどのくらいいるか。別子銅山発祥の地

であるため重要視していただきたいと思う。旧別子に行ったことある議員さん、市職員の方がどのくらいいるか。別子には別子ダムという全国でも珍しい民間のダムがあるのだが、あのダムの水がどうなっているかご存知か。溜まっている水はすべて工業用水として新居浜市で使われている。このあかがねミュージアムは合併特例債を活用して建設されている。つまりは別子山との合併がなかったらこの施設は建っていなかったのではないだろうか。そのことを知らない市の職員もいるのではないか。最近話題にはなっているが、合併協議会で、別子には別子観光センターや筏津山荘という宿泊施設があったが、五、六年前に取り壊しになってしまった。部分的にはまだ10年、20年使用できる施設もあったがまとめて壊されて更地になっている。筏津山荘などは合併協議会で改築をするということになっていたはずだが壊したままでそのままとなっている。新しく代替の施設をとという話が今進んでいるが、建てかえと言えるような施設をつくっていただけるのかと心配しているところである。今別子にくる観光客の方がかなりの数いるが、泊るところがない。ゆらぎの森があるが、定員が20人そこそこであり、金額が高く一泊15,000円とかするので実質泊ることができず、帰らないといけない。滞在も短い。体験なども用意しているが、どうしても日帰りだと限られてしまう。議員さんにも別子のことを理解していただいて、別子が10年、20年とずっと存

続できるように協力していただけたらと思う。

○前田教授

別子山の特徴を含めて考えていくべきではないかという話があったが。

●山本議員

新居浜市議会も別子山のことについて無知ではなく、筏津山荘のことについても地元から強い要望がその当時なかったと思う。別子山にはご存知のとおり学校をなくさないようにお願いしたいという話が自治会からあり、地元の子供はいないが市内の方から募集して英才教育をするような学校も残している。筏津山荘のことについても今いろいろと協議されていると思うが、私の記憶では約7億円から8億円ほどの予算が別子山に行っていると思う。それに比べて大島はわずかな予算である。いずれにしても私たちも別子山と一緒に、平成15年以後ずっとここにいる議員も含めて協議をし、いろいろ努力をしており、別子山のことについて忘れず、頑張っているので別子山のごことはよく存じ上げている。そのことだけお答えしておく。

●一般人（男性）

私は連合自治会長をしており、筏津山荘の跡地の利用について要望も出したが、それが実現して、別子山が存続し、できれば発展できるようにしていきたいと住民みんなが考えているので、よろしくお願ひしたい。

●藤田議員

いずれにせよ、我々も別子山のいろいろな

事業についても全く反対というわけではないので、別子山の人たちもそれなりに取り組んでもらいたい。そうでなければ住んでいる方も少ないので厳しいが、限られた人の中で、今連合自治会長さんが言われることなどにも取り組んでいただきたい。そうでなければ我々も声を大にして市長に要望ができない。それは別にしても別子山には素晴らしい資源があるので、多くの方に入ってきてもらう、そのためには旧別子観光センターがなければ、山を越えて別子山に入って行ってもどこにも休憩するところがない。ぜひ整備していかなければならないと思う。また旧別子の遺産に関しては、ガイドがいないと、一回きりで終わってしまう。リピーターの方、大勢の方に来ていただいて、素晴らしい別子の山、産業遺産を見ていただいて、また、友達を連れてきてもらい、赤石の自然を満喫してもらおうということでいろいろな関係の方が力を合わせて取り組んでいかなければならないのではないかと思う。

○前田教授

大事な資源ということをみんなが共感していけることが大切。

●近藤会長（新居浜市観光協会）

私の子が現在高校3年生だが、ボーイスカウトに入っており、小学校低学年のころから別子山や大島で非常にお世話になった。夜型のメニューではないが、他の市とかでやっているナイトウォークをするには非常に良いところだと思うし、ふぐざくやざんきなど先ほど話が出たが、うちの子が話すのは昔大島で食べさせていただいたりこ

めしの話である。掘り起こしていけばいろいろないいものが見つかると思うので、みんなで盛り上げていけたらと思う。

○前田教授

本日いろいろなご議論があり、新居浜にあるいろいろな資源を大事にしていくということが共感できたと思う。ただ、今の観光のあり方というのは、大型バスで受け入れるというのがだんだん主流ではなくなってきて、個人や家族、グループなどの旅行が主流になってきて、そのような旅行客をどう受け入れるかが大事になってきている部分がある。そういう人たちを受け入れる仕組みをどう考えていくのか。そこにはいろいろな資源がある。資源、場。場があればいいというわけではなく、事、そこで起きていることが大事になる。それに共感を呼んでくれる人たちがいる。そういう共感をたくさんの人たちが共有してくれると多くの人たちが来てくれると思う。共感力が強ければ強いほどいい。共感をどう生むかが大切で、見て回るだけではなく、体験が大事になる。ではそこでどんな体験が提供できて、その体験をいかに共感してもらえるかというのがすごく大事である。体験の意味とか価値をしっかりと伝えていくことが大事になる。そういうことを伝えていけるものがあると思う。お土産も、事を売るといふか、裏側にあるストーリーを売れるように。こういう思いでつくったとかこういう資源を大事にしてつくったとか、その裏側にあるストーリーを大事にしていくような形でいろいろな人に伝えていくのが必要になるのかもしれないと思った。そこは手間がかかって大変だろうとも感じた。一個一個をそうやって磨いていくことが大事で、

磨かないままあれば売れるという時代では
今はない。そういうのを考えていくときに
皆さんが協力して、自分たちの宝として売
っていきたいと共感する人たちが周りにい
ないといけないと思う。その共感者をいか
にふやしていくかも大事である。例えばさ
んさん物語で今度は東予地区全体を売り出
す中で新居浜はこうなのだとか、こう見え
るとか、新居浜を売っていくときに、産業
遺産はこう、別子山はこう、大島はこうと
いう人の関心と呼ぶヒエラルキーみたいな
ものがあると思うので、そういうことを積
み上げていくことがすごく大事であるとい
う気がした。一足飛びに観光と言うのは難
しいので、積み上げていく努力をしながら
進めていくということ。そこの共感がS N
Sなどで伝わっていくのがたくさんあると
いう気がした。ぜひこれから新居浜の観光
が元気になっていただきたいと思って今日
の意見交換会を閉じる。

議会フォーラム2018議事録

日時 平成30年11月21日(水)19時～
 場所 あかがねミュージアム多目的ホール

- 開会挨拶 市議会議長 加藤 喜三男
- 司会 市議会議員 小野 辰夫

<第一部 新居浜市の未来について ～若者の意見をきく～>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【パネリスト】※敬称略

(企画総務委員会)

- ・田窪 秀道 議員(委員長)
- ・三浦 康司 議員(副委員長)
- ・加藤喜三男 議員
- ・藤田 豊治 議員
- ・高塚 広義 議員
- ・太田 嘉一 議員
- ・神野 恭多 議員

(新居浜工業高校)

- ・機械科 宇川 圭次
- ・電子機械科 加藤 竜
- ・電気科 岡田 来海
- ・情報電子科 神野 晃輝
- ・環境科学科 伊田 嘉

フォーラム記録

●田窪議員<委員長主旨説明>

近年の景気回復で県内の有効求人倍率も極めて高い状態が続いている反面、本市では高校卒業者の市内企業への就職率が極めて低く、中小企業経営者からは悲痛な叫び声が数多く聞かれるような状況下にある。本委員会では、サブテーマを新居浜市で働く上での課題と題し、市内でものづくりを学んでいる工業高校の生徒たちから意見を聞くことにより、その課題解決に向けてどのようなことができるかを考えてみたいと思う。



○前田教授

今、市内の就職率がかなり低いという話があった。それをどう改善していくのかということもあるが、これからの新居浜を担う若い高校生の皆さんと、新居浜市についてどういうことを思っているのかを含め、意見交換できればと思っている。最初に、新居浜市がどんな町であれば住みたいと思うのか、その辺から話を伺いたい。

●宇川さん(新居浜工業高校 機械科)

交通の面で不便な面が多々あると思う。朝通学する際にも車が渋滞しているので、私

たちもこれから就職するに当たって、渋滞を改善したらと思う。

○前田教授

自転車で通学するとき、こんなことが困っているという点はあるか。

●宇川さん(新居浜工業高校 機械科)

自転車道の整備などがもう少し行き届いていたら、安全に行けると思う。

●加藤さん(新居浜工業高校 電子機械科)

若者離れが進んでいるので、若者に人気のある商業施設などをもっとふやせばいいと思う。

○前田教授

どんな施設がいいと思うか。

●加藤さん(新居浜工業高校 電子機械科)

ラウンドワンのような、スポーツができる、家族でも行ける場所などをつくれればいいと思う。

●岡田さん(新居浜工業高校 電気科)

宇川君と同じで交通整備が一番目立っていて、自転車を通る道に住宅の木が出ていて、それを避けて車道に出るとクラクションを鳴らされたり、信号でとまるときも場所がないとか、そういうところがよくあるので、改善されたらもっとよくなると思う。

●神野さん(新居浜工業高校 情報電子科)

水道代が無料になればいいと思う。水道代の有無はほんの少しの差かもしれないが、生活にちょっとした余裕ができるので、無料になるとうれしい。

●伊田さん(新居浜工業高校 環境科学科)

宇川君と同じ意見になるが、踏切での渋滞

がとても多いと思うので、高架にして、車の渋滞をなくしてスムーズに通れるようにすればいいと思う。

○前田教授

こんな町になれば、若い人たちは住み続けるかもしれないというのが出てきたかと思う。感想でもいいが、議員の皆さんはどうか。

●田窪議員

今回のテーマを考えた根拠になるが、毎年5つの新居浜の高校と高専の生徒たち年間約1,100人が卒業し、その中で約200人弱が東予圏域に就職しているというデータがある。新居浜商工会議所に登録している企業は現在約2,500社で、結果的に隅々まで人が行き渡っていないのが実態であるが、今日お見えの皆さんはすでに市内で就職を決めたということだが、どのようなことで決めたのか、そういうところがわかればありがたい。

○前田教授

どんな町ならいいかという話もあったが、皆さんはすでに市内に就職することが決まっている。なぜ市内に就職するのかを聞きたいということなので、順番に発言をお願いします。

●伊田さん（新居浜工業高校 環境科学科）

私は、収入や休暇はもちろん、祭りが好きなので、地元に貢献したいという思いから市内に就職した。

○前田教授

祭りの存在は大きいのか。

●伊田さん（新居浜工業高校 環境科学科）
大きい。

●神野さん（新居浜工業高校 情報電子科）

親孝行したいと思って市内の就職を目指した。それと、伊田君と同じで祭りが好きなので、祭りなどに参加して地域の活性化に貢献できたらいいと思い、市内の就職を希望した。

○前田教授

親孝行したいということだが、就職が決まって親は喜んだのか。

●神野さん（新居浜工業高校 情報電子科）

喜んでくれた。

●岡田さん（新居浜工業高校 電気科）

将来その仕事はずっとある可能性があるところに就職しようと思った。高校を選ぶときも、将来どこに行っても電気はなくなることはないと思って選んだ。太陽光発電などが家庭で行われており、もし家で電気が全て賄えれば発電所がなくなっても大丈夫になってしまうが、電気にかかわる中でも電気を使う材料はいつまでも必要だろうと思い、仕事としてなくなるらない、安定したところを考えて就職した。



●加藤さん（新居浜工業高校 電子機械科）

神野君や伊田君と同じで祭りが大好きで、地元でも有名な大企業で活躍したいと思い、選択した。

●宇川さん（新居浜工業高校 機械科）

溶接の仕事につくが、高校の部活動で溶接の全国大会に出場し、そのときにもものづくりの楽しさ、溶接の楽しさも感じ、クレーンをつくるのだが、地元でも大きなものをつくってみたいと思い、地元で就職したいと思った。

○前田教授

学校での学びが自分の生きがいにつながるようなことがあるかと思うが、皆さんは企業の情報をどうやって入手したのか。

●宇川さん（新居浜工業高校 機械科）

インターンシップで1週間くらい実際に企業で働いて、その後にみんなで意見交換、発表をする。そのときに、この会社がいいなど知ったりする。

●加藤さん（新居浜工業高校 電子機械科）

部活の先輩がその会社に就職していて、そこで聞いた。

●岡田さん（新居浜工業高校 電気科）

加藤君と同じで、昨年入社した部活の先輩方に、実際にどういう仕事をしているのかを聞いた。

●神野さん（新居浜工業高校 情報電子科）

インターネットなどで企業のことを調べた。あとは、加藤君や岡田君と同じで、部活の先輩や科の先輩などに話を聞いた。

●伊田さん（新居浜工業高校 環境科学科）

加藤君と同じように部活の先輩や家の近く

でその企業で働いている人から、こういう企業があるということを知って選んだ。

○前田教授

若い人たちが市内で就職する動機として、祭りが一番効果があるような気がしたが、祭りがあるとか親孝行したいとか、ずっとあり続ける仕事を選ぶということがあると思う。地元の大企業とか、今まで学んだことを生かしたいという話もあったが、今の話を聞いてどうか。

●高塚議員

私も新居浜工業の電気科を卒業して住友共同電力に入ったが、地域の方が住友共同電力に行っていて、そこが非常にすばらしいということで、最終的には兄弟などいろんな意見も聞いて決めたが、今はインターネット等を見ると、会社の採用条件のところに、こういう条件で厚生はこうとあり、先輩の声を載せている企業もあるが、ほとんどは給与条件しか載っていないので、先ほど皆さんが言われたように、人からアドバイスを受けることが一番説得力があるのかと思う。実際に働いている人の意見が大事かと思う。私自身そういう経験があったので、今後、現場で働いている人の意見をしっかり会社の情報に載せていくということも大事かと思った。

●加藤議員

インターンシップ先が皆さんの希望どおりかをお聞きしたい。皆さんはもう就職が決まっているが、インターンシップで見えたところがよかったのでそこを選んだのか、

それとも、先輩がいる会社の方がいいからそこに決めたのか。自分の希望したところにインターンシップに行ってそこがよかったから新居浜に残ろうとか、やっぱりだめだから都会へ行こうというのが多いのではないかと思うが、その辺はどうか。

●宇川さん（新居浜工業高校 機械科）

各企業の受け入れ人数が決まっており、じゃんけんで負けたためインターンシップ先は溶接の会社ではなく、機械科の科長から勧められたところに行った。そこは悪いことはなかったが、自分の求めている仕事ではないと思った。インターンシップが終わると、学科で自分がどんなところに行ったか、どういう仕事をしてきたかという発表があり、そこで自分が行きたかった会社の発表を聞いて、やはり行ってみたいと思い、その会社に就職した。

○前田教授

来年就職して後輩の皆さんがインターンシップに来たら、伝えていくことができると思うが、皆さんが就職する企業に入って、工業高校で得た学びが生かされる実感はあるか。

●宇川さん（新居浜工業高校 機械科）

溶接は、工業で学んだ知識そのものなので、生かせる仕事だと思う。

●加藤さん（新居浜工業高校 電子機械科）

ものづくりの難しさなどは、ずっと思うものだと思う。達成感はある。

●岡田さん（新居浜工業高校 電気科）

就職先はパソコン業務で、実際に現場に行

ったりしてみるという感じだが、実際に電気に関する知識があるので、現場の方の気持ちや、実際インターンシップに行ったときにも感じたりしたので、仕事をこういうふうにお願いしたいというときにも、現場の方のことを優先して考えられるように、と考えている。

●神野さん（新居浜工業高校 情報電子科）

従事する仕事は、工場の設備の点検や改善であり、私は情報電子科でプログラミングなどを行っているが、工場の機械を動かすときにもプログラミングを用いるので、役に立つのではないかという実感はある。

●伊田さん（新居浜工業高校 環境科学科）

加藤君と同じように、ものづくりをして難しさを感じて、それを乗り越えた達成感がとてもよかったと思う。

○前田教授

それは学校の学びだけではなく、インターンシップとか企業に行って感じたものということか。

●伊田さん（新居浜工業高校 環境科学科）

はい。

○前田教授

学校での学びとインターンシップ、企業での学びがあって、その両方が皆さんのいろんなことを決めていくベースにあると少し思った。あともう一つは、地域にいろんな情報があふれている。先輩やその企業に勤めている人がたくさんいて、そういう人たちの話を聞く機会が結構ある。そういうものが、市内に就職したいというきっかけに

つながることが結構ある気がする。そういう環境をもっと生かす、もっとこういうふうになれば、市内の就職者数をもう少し上げていくことができるとか、その辺はどうか。



●田窪議員

ここに来られている5人の生徒は市内に就職していただいて本当にありがたいが、新居浜工業高校は、160人くらいが毎年卒業する。就職する上で学校に来る求人の案内もあるから、就職の先生もその企業を紹介していく過程で、極端に言えば新居浜の企業で働きたいのに、先生が企業を紹介してくれて、親の介入もあったりして、市外、県外の大企業を考えてくれないか、そこなら市内より、福利厚生も給与もいいよと提示されたら、生徒の気持ちも揺らぐのではないか。今日来られた皆さんは市内の企業に決めていただいたが、そうでない生徒もいるので、それはどういうことで決めているのか。企業側からの情報発信力を相当上げないと、新居浜で働く選択肢もふえないのではないかと少し心配している。

●藤田議員

市内で就職する人が少ないが、例えばIT

とか、どういう職種が新居浜にあれば就職したいとか、友達の声聞いたことがないか。

●岡田さん（新居浜工業高校 電気科）

新居浜西高の友達などがいるが、なるべく鉄工所とかではなくパソコンなどでできる仕事をしたいというように、今どきの子が考えている風潮があり、実際に鉄工所などに行ったら上の人たちにきつく言われるというイメージがついてしまっていると聞いたので、そういうところが改善されたらよくなっていくのではないかと。

●神野さん（新居浜工業高校 情報電子科）

市外や県外の企業の方が給与がいいということで選んだと聞いた。それと、ひとり立ちをしたいので市外や県外の企業を選ぶという人もよくいる。

○前田教授

給与が高いところに行くと支出も高いと思う。その辺のバランスを訴えていかないといけない。自分がどういう生活を送りたいのかという話もある。当然やりたい仕事をやっていくのはいいと思うが、ワークではなくライフ、そこでどんな生活ができるかという話。さっき親孝行したいとか祭りにかかわれるとか、生活にかかわる要素で皆さんの中で大事なものがあつた。そういうものをどう訴えていけるのか。自分たちのライフデザインとして考えたときに、学校での学びや企業での学びを生かすということもあるが、地域の生活に関する情報を提供しながら、新居浜に就職するということ

とができるという話はあると思う。会場の皆さんから意見があれば出していただきたいと思うが、どうか。

(意見なし)

まとめ

○前田教授

いろんな企業を判断する基準、イメージは、まず、市外の大企業、首都圏、都会の大企業、次に市内の大企業、次に市外の中小企業、市内の中小企業、そういう変なヒエラルキーがあって、それに少し惑わされている部分があるのではないと思う。皆さんが感じてくれている、新居浜で働く魅力、そういうものをきちんと伝えることが大事かもしれない。昨日もシビックプライドの話が出たが、自分たちの町に誇りを持つ、自分の仕事として誇りを持つ、そういうときに周りがそう思っていないと、なかなかイメージが変わっていかないかもしれない。地元で働いてくれている人たちを顕彰していくようなやり方だとか、そこにある仕事のすばらしさみたいなものをちゃんと伝えていくことができるとか、それらがいろんな生活を支えていく基本的なところとして大事なものというようなことをちゃんとアピールしていかないといけない。彼らが地元の企業に就職してくれてやっていること、それぞれの仕事の生きがいみたいなものも含めて、彼らのこれからの動きも含めて、新居浜のいい事例として紹介できるとか、こういう仕事の仕方や暮らし方があるということのをちゃんと伝えていけたらいいと思

う。地域にあふれる情報の中でいいモデルケースをどんどん発信できる、いろんな気づきがある、その気づきを大事にすることができればいい。先ほど難しさを乗り越える達成感の話が若い人たちから出てきた。大変なことがいっぱいあるかもしれないと思うが、それを乗り越えたときの達成感をいろんな人に味わってもらえるようになればいいと思う。インターンシップで1週間企業に来てもらうときに、そういうことを体験できるようなプログラムが開発されるのもありだと思う。愛媛大学も、学生の6割は県外から来ている。県外就職率も6割で、県外に出ていく学生が多い。いかに県内にとどまってもらうかという話をしているが、皆さんと同じようにインターンシップやフィールドワークの話もあるが、愛媛で暮らしたときのライフデザインがどうなのかということ。確かに都会に行くと給料は高いが支出も多い。仕事に追われた生活になってしまうかもしれない。愛媛だともう少しゆったりした生活ができるかもしれないということを考えて、ワークライフバランスの話で展開できればいい。新居浜は、祭り、生活を支えるいろんな象徴するものがあつたりする。そういうものを生かすことができればいいと思う。皆さんも若い人たちを応援するときに、仕事だけではなく生活という視点から、新居浜で暮らしてこういうところがよかったと、どんどん発信していくようなことができるといい。それがちまたに情報としてあふれて、新居浜で

生活しているとこんないいことがあったと、皆さんが本当に思えるかどうか。新居浜には何もないから外に行けとわざわざ言う人たちがいる。そうならないように、新居浜に住むとこんないいことがある、自分はこんないい思いをしたということをお子たちに伝えていけるかどうか、大人側の問題としてある。いろんなことを考えて、体験して、新居浜のことを考えてくれる若者が少しずつふえていけばいいと思うが、そういう方向性を皆さんで盛り上げていかないといけない。これは、若い人たちの思いだけでは足りなくて、大人たちがそこをしっかり支えていかないと、なかなか地元に着かない。新居浜はお祭りがあるので一番いいと思うが、若い人たちが、あの時はああったと話せるような共通の思い出をたくさんつくるのが大事。それらを若い人たちに提供するだけでなく、若い人たちと一緒につくっていく。若い人たちが参画して、自分たちの思いを実現していくような形で共通の思い出ができるようなことを繰り返していくことが大事だと、今日話を聞きながら思った。ぜひ、新居浜の若い人たち、もっとたくさんの人にずっと新居浜に住み続けてもらえるように、大人も若い人たちもこういう形で努力できたらいいと思う。これで、第一部を終わりたい。

議会フォーラム2018議事録

日時 平成30年11月21日(水)19時50分～

場所 あかがねミュージアム多目的ホール

<第二部 コミュニティスクールについて>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【パネリスト】※敬称略

(福祉教育委員会)

- | | | |
|------------------|--------------|-------|
| ・ 藤田 誠一議員 (委員長) | ・ 教育委員 | 近藤 智佳 |
| ・ 大條 雅久議員 (副委員長) | ・ 教育委員 | 本田 郁代 |
| ・ 近藤 司議員 | ・ 北中学校校長 | 小笠原忠彦 |
| ・ 豊田 康志議員 | ・ 新居浜小学校校長 | 篠原 直樹 |
| ・ 藤原 雅彦議員 | ・ 宮西小学校校長 | 星川 孝徳 |
| ・ 井谷 幸恵議員 | ・ 北中学校PTA会長 | 藤田 優 |
| | ・ 新居浜公民館館長 | 高田 実 |
| | ・ 口屋跡記念公民館館長 | 高田 憲二 |

■閉会挨拶 市議会副議長 豊田 康志



フォーラム記録

●藤田議員<委員長主旨説明>

コミュニティ・スクールは、学校運営に保護者や地域の皆様が参画することで、地域とともにある学校づくりが促進され、それにより地域と家庭と学校が互いに信頼し、力を合わせ、それぞれの立場で地域の子供の成長を支えていくことを目的としている。本市では、平成31年度からすべての小中学校での導入を目指している。そのようなコミュニティ・スクールについて、学校の声、保護者の声、地域を聞き、皆様と一緒に考えたいと思う。



○前田教授

コミュニティ・スクールについて、これから協議を進めていきたいと思う。

●大條議員

地域で子供を育てると言っても学校であるから校長先生を中心に運営を進める点も重要だと思っている。文部科学省が全国のコミュニティ・スクールの先進事例をまとめ、また、運営の枠組みを示しているが、まず北中校区のコミュニティ・スクールが目指す形というものを説明していただいたら、来ている市民にもわかりやすいと思うので

お願いしたい。

●小笠原北中学校校長

一般的にコミュニティ・スクールとは、地域とともにある学校のことである。最近、子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は、複雑化、多様化しているため、学校と地域の連携、協働の重要性が言われているが、保護者と学校と地域住民が、家庭でしつけ、学校で学び、地域で育てるといった従来の基本的な役割を果たしながら、目標（地域でどのような子供を育てるのか）やビジョン（何を実現していくのか）を共有し、子供たちの成長のための特色ある学校づくりをしていこうとするものである。話し合う場が必要になるため、学校運営協議会を設置することになる。構成員としては、保護者、地域住民、学校関係の代表者であり、学校運営協議会の役割としては、校長が作成する学校運営基本方針の承認や地域等の意見を学校運営や協働推進に反映することである。コミュニティ・スクールを導入することで、子供たちにとっては学びや体験活動の充実、自己肯定感や思いやりの心が育つ、安心安全な生活ができるといった魅力がある。教職員にとっては、地域の理解と協力を得た学校運営の実現、地域の協力による教育活動の充実や子供と向き合う時間の確保といった魅力がある。また、保護者にとっての魅力としては、学校や地域への理解の深まり、人間関係や地域ネットワークの構築、防犯・防災体制の構築といったことである。北中学校には、新

居浜小学校と宮西小学校の卒業生が入学してくるため、9年間の学びの中で子供たちを育てていくということで、3校が一つになってコミュニティ・スクールを推進していくことにしている。北中校区としては、各学校の共通課題として、学習習慣の定着、学習の充実、自尊感情や思いやりの心や自主性の醸成、育成があることから、豊かな心を持ち、健康でたくましい児童生徒の育成という校区の教育目標と自分で学ぶ子、心と体の強い子という校区のこども像を設定している。その具現化に向けて、学力向上と健全育成の視点から、3者が基本的な役割を担いながら、連携し進めていこうと考えている。新しい行事をふやすことばかりを考えるのではなく、これまでの行事を見直して、運営できたらと考えているが、新居浜小学校と宮西小学校の独自の教育活動もあるのでそれを生かしながら、義務教育9年間を見越した3校の連携を図りたいと考えている。北中校区の学校運営協議会には、地域からは各公民館長、連合自治会長、主任児童委員が、保護者としては各校のPTA代表者が、学校としては各校の校長と教頭が、事務局としては各校の教頭、教務主任、事務職員が入ることになっている。校区のこども像を実現するために行く行くは部会を設置したいと考えている。また、校区の目標を実現するために、これまでの取り組みやつながりを生かしながら、北中学校が小学校や公民館と連携を図る構想を考えている。具体的な取り組みとして

は、自分で学ぶ子、学習習慣の定着を目指すものとして、小中学校共通した学習ルールや家庭学習のルールづくり、校区学習強調週間の設定などを考えている。心と体の強い子を目指すものとして、校区合同挨拶運動や合同総合防災訓練の実施を考えている。ほかにも公民館や連合自治会、PTAの行事への参加や校区全体で人権意識の高揚ができるような取り組みも考えていく。

○前田教授

コミュニティ・スクールとは何かという話があった。学校、地域、家庭が連携することで、自分で学ぶとか心と体の強い子供への育成につながると私は感じたが、皆さんからの質問はあるか。

●豊田議員

文科省、教育委員会主導型で来年の4月から導入されるということで、趣旨については理解した。最終的には、3者が協力しながら学力向上と健全育成ということになると思う。健全育成については、私たちが幼いころには、催しがあると大人5人くらいに、この子はどこの誰の孫で親父は何をしてと、ものの5分くらいで丸裸にされ、最終的にはどうしようもない悪ガキよと烙印を押されたが、会話に参加した大人から叱咤激励をしていただきながら、地域の方に育てられた経験があるので、いい環境ができると期待している。校長に聞きたいのだが、学力向上をしていくためにコミュニティ・スクール導入で具体的にどういうことをされようとしているのか。また、PT

Aの会長からPTA活動が忙しいのに、これ以上ふえたら大変だという不安な声も聞いた。コミュニティ・スクールにおいて、協力していく中で期待することを教えていただきたい。

●小笠原北中学校校長

学力向上の具体的な手だてとしては、小中学校共通の学習ルールや家庭学習ルールづくり、校区学習強調週間の設定がある。例えば、同じような家庭学習のルールを決めておくと、保護者も子供に言いやすいし、地域の方も勉強しているのかなど声をかけることで子供も励みになる。そのようなことができるように小中連携し、学力向上を図りたい。



○前田教授

地域やPTAが今以上に負担になるのではという話については、どうか。

●藤田北中学校PTA会長

北中校区は、新居浜小学校と宮西小学校と北中学校の2つの小学校と1つの中学校の校区で構成されている。コミュニティ・スクール導入を鑑みて、3校のPTA役員で意見交換をする機会が近年ふえており、コミュニティ・スクール導入に対しての意識

調査も行うが、3つの意識に分かれる。1つ目はコミュニティ・スクール導入により、子供たちの成長・教育環境が非常によくなるという前向きな意見。2つ目はコミュニティ・スクール導入により、参加行事や役割がふえるのではないかと懸念。3つ目はいまだにコミュニティ・スクールとは何か、また導入することでどうなるのかという意見だが、これが大半を占めている。コミュニティ・スクールとは何か、どのような効果が生まれるのかという質問を受けるが、答えに詰まるときもある。私なりの答え方で、平成31年度までに学校運営協議会が導入され、学校、PTA、地域が協力して学校運営に携わり、子供たちの教育・成長環境をよりよいものにしていく試みであると答える。そうすると、いいと答える人もいれば、中には昔からやっていることで今さら導入しないといけないのかと辛辣な意見もある。私の目下の悩みだが、コミュニティ・スクールとは何かと聞かれた際に、北中校区の保護者がそれいいねとズバツとくるような返し方があれば教えてほしい。

●藤原議員

私は惣開校区連合自治会長をしているが、コミュニティ・スクールという言葉が出る前で、今から三、四年前に赴任してきた校長は、地域と一緒に学校を運営したいという気持ちが強く、校長の投げかけから、校長、公民館長、主事、連合自治会長の数名で月1回の職員室での給食会を惣開校区と

して始めた。その給食会では学校や地域の課題などの意見交換から始まり、さまざまなことを話市中、相互交流ということで惣開小学校の音楽会と合同で文化祭を始めることになり、参加者もふえる結果となった。また、防災訓練も地域と学校が一緒にすることで、前年の参加者が160人だったものが700人程度までふえる結果となった。その中で思ったことは、単に参加者がふえたということではなく、生徒や先生の顔と名前がわかるようになったということ。相手の顔が見え、相手の考えていることをお互いが知ることから、コミュニティ・スクールが始まるのではないかと。確かに難しいことだが、ある意味簡単かもしれない。地域と学校が一緒に何かをやっていこうという姿勢になれば、さまざまなことが見えるのではないかと思う。

○前田教授

地域での賛同が得られれば、協力してもらえる機会がすごくふえる気がする。負担感については、一方的に負担が増すということではなく、お互いに助かるという話に持っていけるのかどうか。そこへの理解が大きい。学校運営協議会をうまく進めるために、どのような応援等があればやりやすいのか。

●高田新居浜公民館長

コミュニティ・スクールにはいろいろなやり方があるが、私は子供たちが9年間の学びの中で安心安全で、また楽しい学校生活ができることが基本だと思う。

我々も地域として、三世代の交流をしており、この3年間で学校、地域、PTAが協力し、小学校で防災キャンプを行った。子供たちを一晩体育館に泊めて、消防団などの地域の方に助けてもらい防災のやり方を指導した。今年は、将来的な地域の防災力として、中学生を巻き込み、防災士への第一歩というテーマで通学途中の危険箇所の洗い出しやマップ化、グループ発表などを中学生が小学生を指導しながら行うことを考えている。また、次年度には校長も言われたように3校区合同の防災訓練をやってみようと思う。生徒やPTAも参加することで防災力を強めた地域にしたい。



○前田教授

地域と学校が協力するいい見本と感じた。先ほど学力の話も出たが、子供たちへの評価としては勉強ができるだけでなく、地域で立ち回る力を持つこととか、いろんな評価の仕方があると思う。子供の持っている力を引き出すのは、まさしく地域だと思う。地域で必要とされる力が、子供たちの中から引っ張り出されて育っていくことができるというのは、地域との連携の中で初めて気がつくことがたくさんあるのかなと。今

の防災キャンプの話聞いて、子供にとっても周りの大人にとってもすごくいい話になると思った。

●大條議員

P T Aの藤田さん、公民館の高田館長の話の中で、従来の学校行事をより深めていく作業のほかに、新たな活動、取り組みも生まれてくると思う。昨年このフォーラムの中で教室のエアコン設置が話された。これは国の動向とも合わさり、来年度に市内の小中学校全教室にエアコンがつくということで、12月補正予算で出ている。それなりの効果があったと思う。ここで言いわけではないが、議会というのは予算を含む提案はできない。予算案はあくまで市長部局のものである。今回のコミュニティ・スクールの取り組みで、P T Aや地域や学校に負担感が出るのであれば、財政的な面も含めて考えていかないといけないが、教育委員会として、近藤委員、本田委員、財政的な支援をしていくかどうかの議論ほどの程度されたのか。

○前田教授

その話は、本筋からずれている気がする。コミュニティ・スクール全体のことを考えたときに、目標を共有してから進んでいかないかという話である。自分で学ぶ力が身についたり、心と体が強くなるような子供たちが育っていくことを目標とし、共有したときにそれぞれの部署で何ができるのかというのがあると思う。皆の目標がずれているとまずいので、目指すべき姿を共有し

ながら進めていけたらいいと思う。それを踏まえた上で、コミュニティ・スクールに対しての思いを発言いただけたらと思う。

●近藤教育委員

先ほど第一部の話の中で高校生が先輩や近所の方に会社の話聞いて就職先を決めたという話があった。私は教育委員であるが、企業や教職員の研修の際に働き方の話をしており、その中で企業の方からロールモデルがないということを知ることがある。高校生の就職の事例を聞くと、地域や学校にロールモデルがたくさんいる中で、彼らは就職を決めたのだと思った。このコミュニティ・スクールというのは、地域や学校における9年間の育ちや学びということで話しているが、最終的には9年間の学びの後、皆がさまざまなところで学んだり、働いたりした中で、行く行くは地域に帰り、地域を盛り上げるということで、一人一人がロールモデルを見る側から、自分たちがロールモデルになっていく。そういう場所として循環していけば、コミュニティ・スクールの目的は達成されるものと考えている。

●本田教育委員

先ほど、P T Aの方から負担感がふえるのではないかという心配を聞いた。P T Aの保護者は、学校活動に協力的で、いろいろな活動をしていると思うが、この地域の方というのは、P T Aの世代の方よりももう少し幅の広い市民になると思う。最近、核家族化が進み、地域の近所の方と保護者と

の接点がすごく少なくなっており、隣の住人がどんな人かわからないような状態の中で生活していると思うが、コミュニティ・スクールとは学校と地域とのつながりをつくる仕組みだと思う。今までは地域と学校との話し合いの場として、学校評議員会があったが、学校評価についてだけの会であったと思う。コミュニティ・スクールの学校運営協議会となると、行事や子供の生活のこと、学校や地域のことなどいろいろなことを課題として話し合う機会を得られるので、その中で地域と保護者と学校とのつながりができるということは、地域の教育力も一過程として得ることができるといった利点にもつながると思うので、これは、現代社会においては、とても理想的で、課題となるところをついた市民のコミュニティをつくる場としての仕組みだと思うので、今始まっている地域学校協働活動や地域の活動と組み合わせて、地域と学校がつながるような仕組みになればいいと思っている。

○前田教授

そういう思いを実現していくに当たり、財政措置が必要であれば、財政措置を行う立場の人、実現に向けてかかわる人、現場で動く人などが一緒に一つの目標で動いていくことが大事だという気がする。学校運営協議会という組織がこれからできていくと思うが、そこで話し合うことは手段であるので、話し合ったことをどう実現していく

のかということがこれから求められる。そのときに財政措置が必要であれば何らかの財政措置を講じないといけない。そういう意味での運営強化を考えたときに、地域の企業が運営協議会のメンバーとしてかかわっていくことがあるのかどうか。地域のメンバーとしてかかわってくることができると、先ほどの工業高校の生徒が言っていたような、ちまたに情報があふれ、自分たちの身の回りにある仕事の価値に気づいていくことができるかもしれない。それは与えられるのではなく、子供たちが自分で学びとるという環境を周りにたくさんつくっていくことなのかもしれない。そういう機会をたくさんふやしませんか。みんなが子供たちの気づきを応援しませんか。これに気づけという話ではなくて、子供たちが気づくことを応援するというやり方が今後進んでいくといいかなと思いつつ聞いていた。まだまだいろんな議論をしながら、進めていかなければいけない部分がたくさんあると思う。少し時間が来てしまったが、会場の方から意見があれば、伺いたい。



○一般人（男性）

企業の立場からすると、市が先頭に立ち企

業にそういう姿勢を求めてくれば、企業としても協賛できるのではないかと思う。ただ、一部団体からということになると、たくさん団体があるので、窓口を一つにしたらいと思う。あと、若干昔の話になるが、自治会では挨拶運動を、学校では不審な方には声をかけられても挨拶してはいけないとされていたが、これを見ると、学校、地域、家庭という3者がみんな善人だと思って挨拶をしていくという捉え方になるので素晴らしいと思うが、可能なかどうか。また、子供たちがだいぶ減ってきている。そういう点からすると、先生方は、部活やこういう取り組みをしていけるのか。子供の立場からすると、部活や塾があり、子供の協賛も得られるような工夫をどうされていくのか。あと、住友城下町であり、世界を代表するような大企業がある町なので、学力も上げていかないといけない。一概には言えないが、優秀な大学に入って、地域に貢献できるようなそういう面において、コミュニティ・スクールがどうつながっていくのかという最終的なゴールを見た上で決めていくということを我々がもう少し勉強していかないといけないと思った。

○前田教授

どうかかわっていくのかということで、窓口を一本化するという話があったが、いろいろなやり方があると思う。地域の一員として、地域の中にある企業の人たちが学校にかかわっていくという考え方もあると思う。当然大きな企業は市域全体になってし

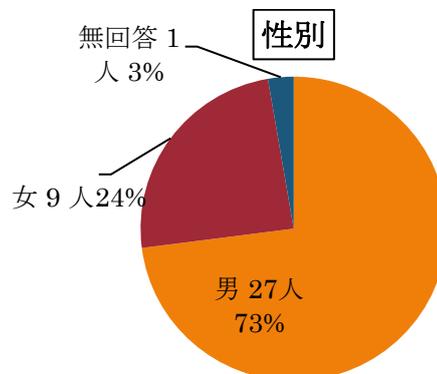
まうので、そのあたりをどうするかというのは、企業のかかわりが必要と判断されたときに工夫していく必要がある。また、学力を上げることは大事なことであるが、学力がベースにあるのではなく、人間としてのベースがあって学力があるという考え方もあると思う。それについては、正解がないので、いろいろな議論をしながらつくっていくことも含めて考えないといけない。議論し尽くせない部分があり、恐縮ではあるが、時間も来たためここで終わりたいと思う。

3 (1) 来場者アンケート調査 (11月20日)

■来場者にアンケート調査を実施し、37人(回収率52.1%)から回答を得た。

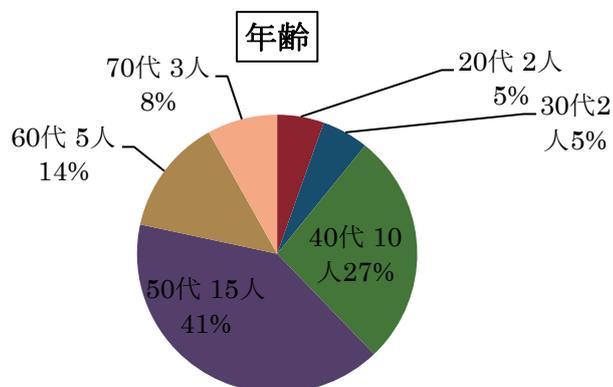
①性別

来場者の性別は男性が27人(73.0%)
女性が9人(24.3%)、無回答1人(2.7%)
となっている。



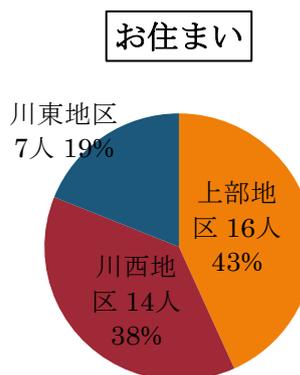
②年齢

来場者の年齢は20代が2人(5.4%)
30代が2人(5.4%)、40代が10人(27.0%)
50代が15人(40.5%)、60代が5人(13.5%)
70代が3人(8.1%)となっている。



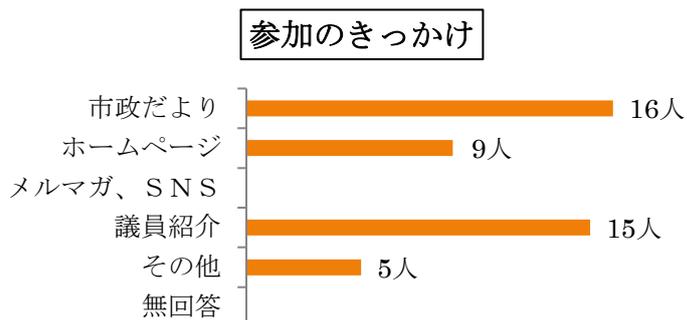
③お住まい

来場者の住まいは上部地区が16人(43.2%)
川西地区が14人(37.8%)、
川東地区が7人(18.9%)となっている。



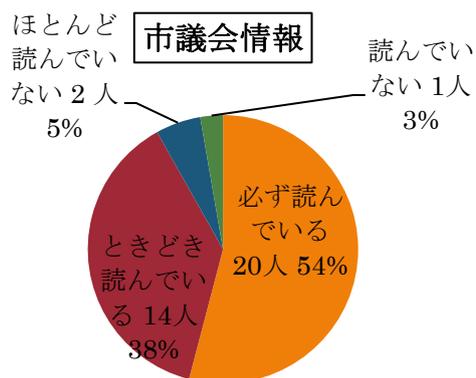
④参加のきっかけ(複数回答)

市政だより16人、議員紹介15人、
ホームページ9人が多数を占めている。



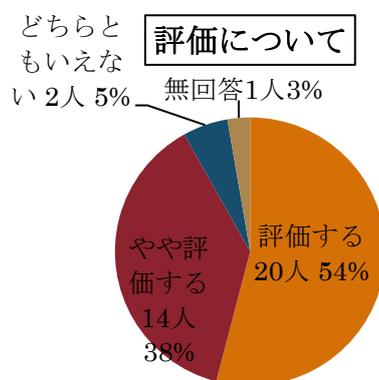
⑤市議会情報

市議会だよりの情報については、必ず読んでいる 20 人 (54.1%)、ときどき読んでいる 14 人 (37.8%)、ほとんど読んでいない 2 人 (5.4%)、読んでいない 1 人 (2.7%) となっている。



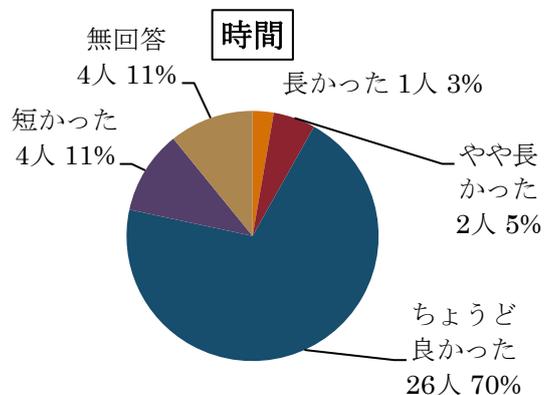
⑥評価について

フォーラム開催の評価については、評価する 20 人 (54.1%) やや評価する 14 人 (37.8%) を合わせて、ほとんどの参加者が評価していると回答した。



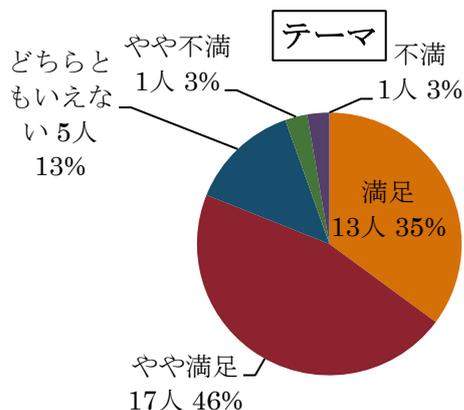
⑦時間について

開催時間については、ちょうど良かったが 26 人 (70.3%) と、7 割以上の参加者がちょうど良いと回答した。



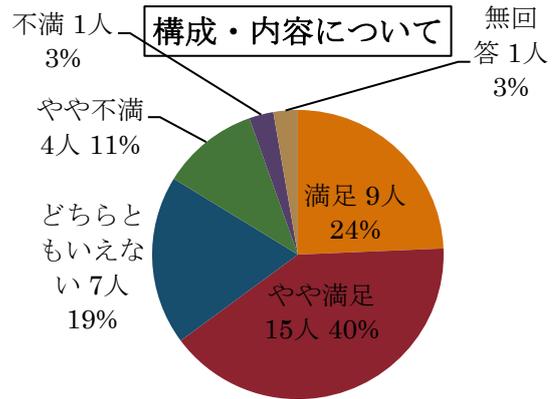
⑧テーマについて

テーマについては、満足 13 人 (35.1%)、やや満足 17 人 (45.9%) を合わせて、8 割以上の参加者が満足と回答した。



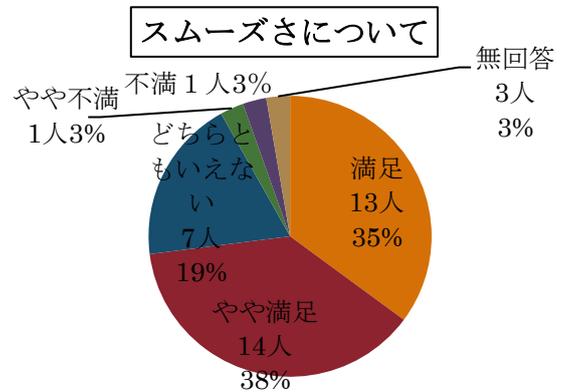
⑨構成・内容について

構成・内容については、満足 9 人 (24.3%)
やや満足 15 人 (40.5%) を合わせて
6 割以上の参加者が満足と回答した。



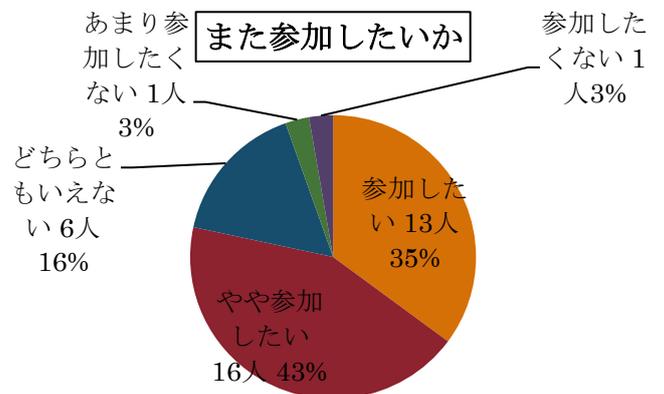
⑩スムーズさについて

会のスムーズさについては、
満足 13 人 (35.1%)
やや満足 14 人 (37.8%) を合わせて
7 割以上の参加者が満足と回答した。



⑪また参加したいかについて

フォーラムにまた参加したいかについては、
参加したい 13 人 (35.1%)
やや参加したい 16 人 (43.2%) と合わせて
8 割近くの参加者が参加したいと回答した。



⑫自由意見

- ホワイトボードの画像がスクリーンに拡大され見やすかった。フォーラム形式にこだわらず、各団体に議会が出向いて意見を吸い上げる形でも良いのでは。(40代 男性)
- このままの形を継続されると、議論が深まるテーマの設定に苦慮されるのではないのでしょうか。(60代 男性)
- 今の方式でよいと思う。(70代 男性)

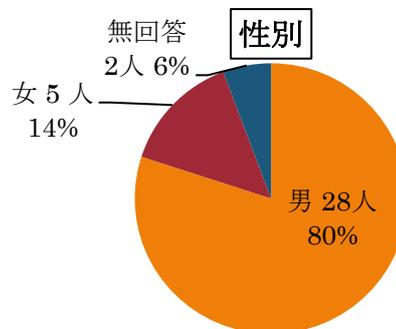
- 1回1テーマの設定で意見を深めるといい。(60代 男性)
- 参加者の減少が気になる。いわゆる一般市民が気軽に参加できる場所、テーマをさらに工夫すれば。時間は現状で良いと思う。(50代 男性)
- 時間が短い。(50代 男性)
- 参加者が少なかったのが残念でした。道路の決定(優先順位)をポイント制でとか、観光資源の見える化、QRコードの活用、市民への周知等参考意見があったのに。(50代 男性)
- 要望と行政施策の論点整理ができたように思う。(50代 男性)
- PR不足なのか、市民の無関心さなのか、本当にお客様が少ないように思いました。(60代 女性)
- 参加者が少ないので、交換会の方法を検討してはどうでしょうか。(50代 男性)
- もっと地域の情報を掴んで話し合いしてはいかがでしょうか。まちなかサイクリングでゆっくり観光を応援しています。(50代 男性)
- 議員さんや地域のえらいさんの話、意見は聞けますが、一般市民の意見を出せる方法を検討いただきたい。(40代 男性)
- 市民の交換会ではない。できレースっぽい。残念な感じ、参加する時間のムダ。少ない時間の中で2つのテーマは時間がなさすぎる。あまり活発な意見が出なかった。市内の道路の話の進行を他市の人をお願いするのはおかしい。道路が未整備なのであれば、今、四国県内を自転車道をつくろうとしているのだから、しっかり幅をとって自転車道にしないと、人の歩かない歩道がムチャ広くて、自転車は車道を通っているのが危険。計画の変更が必要！歩道も車が走りそうなくらい広すぎ。こういった会に女性がいらない。年代も様々な人を呼ばないと、様々な意見が出てこない！観光に関してはもう少し市内から意見を出してもらって形にした方がよい。物産協会の人は男性ばかりなので男性目線では気づきにくい事があると思うので、女性、高齢者の意見を聞く機会をもうけたらいいと思う。市政だよりにアンケート付けたらよい。(40代 女性)

3 (2) 来場者アンケート調査 (11月21日)

■来場者にアンケート調査を実施し、34人(回収率40.5%)から回答を得た。

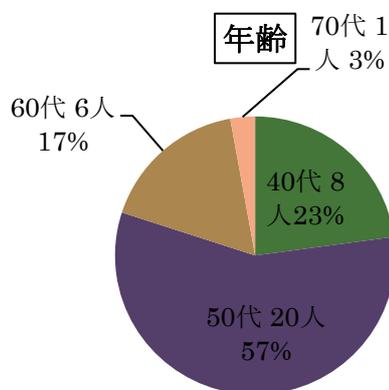
①性別

来場者の性別は男性が28人(80.0%)
女性が5人(14.3%)、無回答2人(5.7%)
となっている。



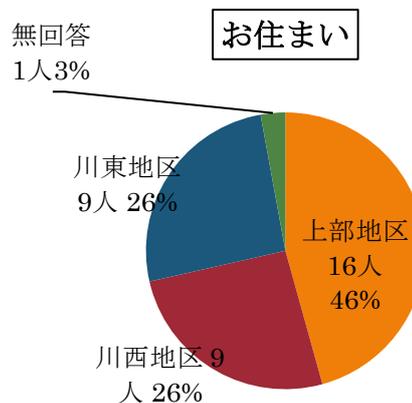
②年齢

来場者の年齢は40代が8人(22.9%)、
50代が20人(57.1%)、60代が6人(17.1%)、
70代が1人(2.9%)となっている。



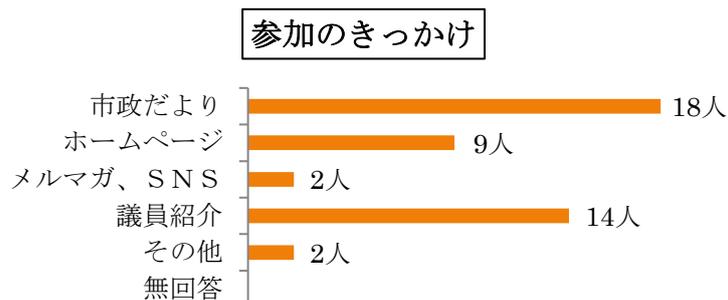
③お住まい

来場者の住まいは上部地区が16人(45.7%)
川西地区が9人(25.7%)、
川東地区が9人(25.7%)
無回答が1人(2.9%)となっている。



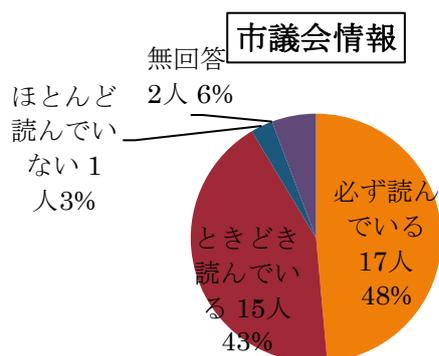
④参加のきっかけ(複数回答)

市政だより18人、議員紹介14人、
ホームページ9人が多数を占めている。



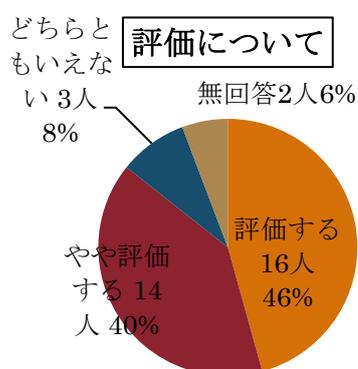
⑤市議会情報

市議会だよりの情報については、必ず読んでいる 17 人 (48.6%)、ときどき読んでいる 15 人 (42.9%)、ほとんど読んでいない 1 人 (2.9%)、無回答 2 人 (5.7%) となっている。



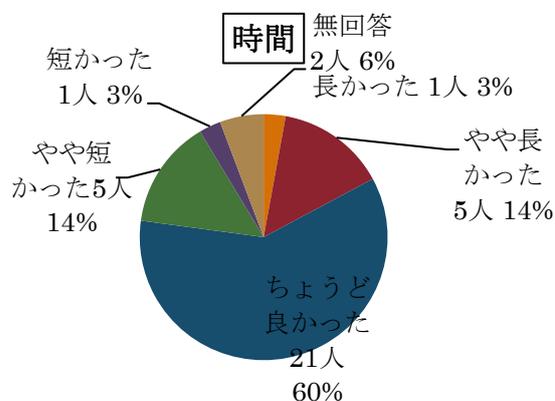
⑥評価について

フォーラム開催の評価については、評価する 16 人 (45.7%) やや評価する 14 人 (40.0%) を合わせて、8 割以上の参加者が評価していると回答した。



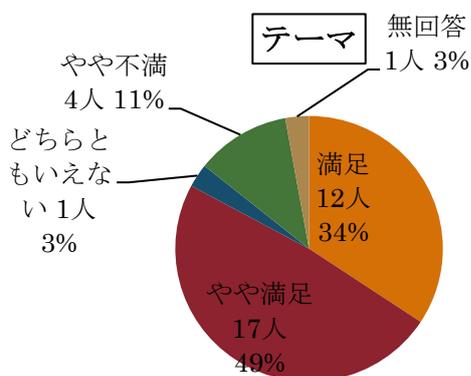
⑦時間について

開催時間については、ちょうど良かったが 21 人 (60.0%) と、6 割の参加者がちょうど良いと回答した。



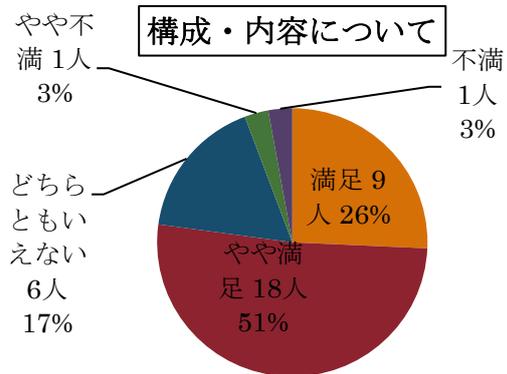
⑧テーマについて

テーマについては、満足 12 人 (34.3%)、やや満足 17 人 (48.6%) を合わせて、8 割以上の参加者が満足と回答した。



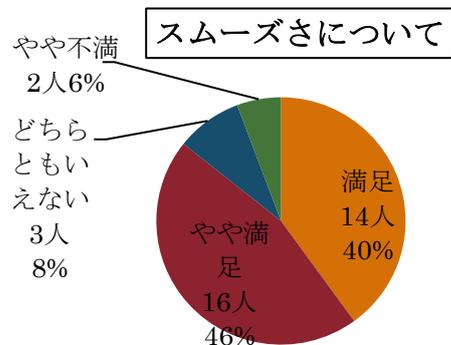
⑨構成・内容について

構成・内容については、満足 9 人 (25.7%)
やや満足 18 人 (51.4%) を合わせて
8 割近くの参加者が満足と回答した。



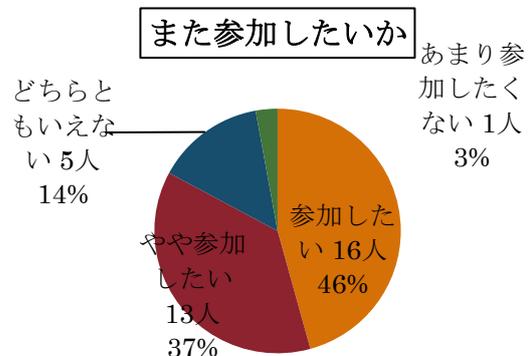
⑩スムーズさについて

会のスムーズさについては、
満足 14 人 (40.0%) やや満足 16 人 (45.7%)
を合わせて 8 割以上の参加者が満足と回答した。



⑪また参加したいかについて

フォーラムにまた参加したいかについては、
参加したい 16 人 (45.7%)
やや参加したい 13 人 (37.1%) と合わせて
8 割以上の参加者が参加したいと回答した。



⑫自由意見

- 観覧者、参加者が少ない。(50代 男性)
- 時間が短い。もっとじっくりと意見、話を聞いて欲しい。(50代 男性)
- 時間が不足かと思いますが、平日夜間ではやむを得ないと思います。現在のスタイルで外部コーディネーター(有識者)にお任せした方が進行がスムーズで良いと思います。(50代 ?)
- 自治会と行政がしているまちづくり校区懇談会とどう違うのか。その辺を明らかにすることで、やる意義がもっと見えてくるように感じる。(50代 男性)
- 参加者が増える方法も考えた方がよいのでは。(50代 男性)

○コーディネーターのフォーラムの進め方がうまいですね。感心しました。(70代 男性)

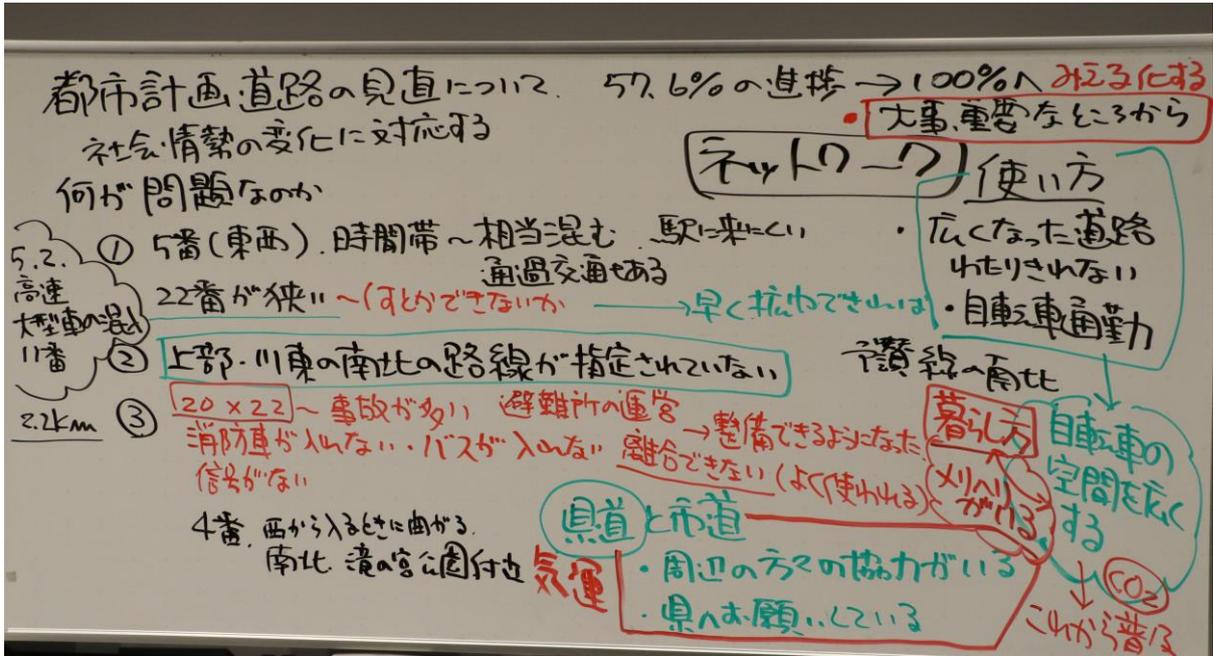
○市民との意見交換会は第一回から参加している。最初は陳情のような意見が多かったが、たまには市民から議員に対して厳しい意見もあって、緊張感が少しあって良かった。フォーラム形式になって、どのような目的で行っているのかよくわからない。議員が各種団体等から現状の課題を徴して勉強したいのか、各種団体等と議員とで課題について議論したいのか。議論するには議員の勉強不足が露呈している感がある。コーディネーターに何を求めているのか。いつも時間がなくて中途半端な形で終わっている。各種団体等からの意見を活かしているのか。例えば、議会において理事者に対して、質問や提案をしているのか。しているのであれば事例集みたいなものを作成して、市民にアピールした方がよりわかりやすい。フォーラム形式になって参加者が減少しているように思える。市民との意見交換会と言っているが、各種団体等との意見交換会で一般市民との意見交換ができていない。方法の見直しを検討すべきである。まだ市政懇談会の方が意見交換になっている。(60代 男性)

4 資料編 (会場ホワイトボード)

■ 11月20日 (火)

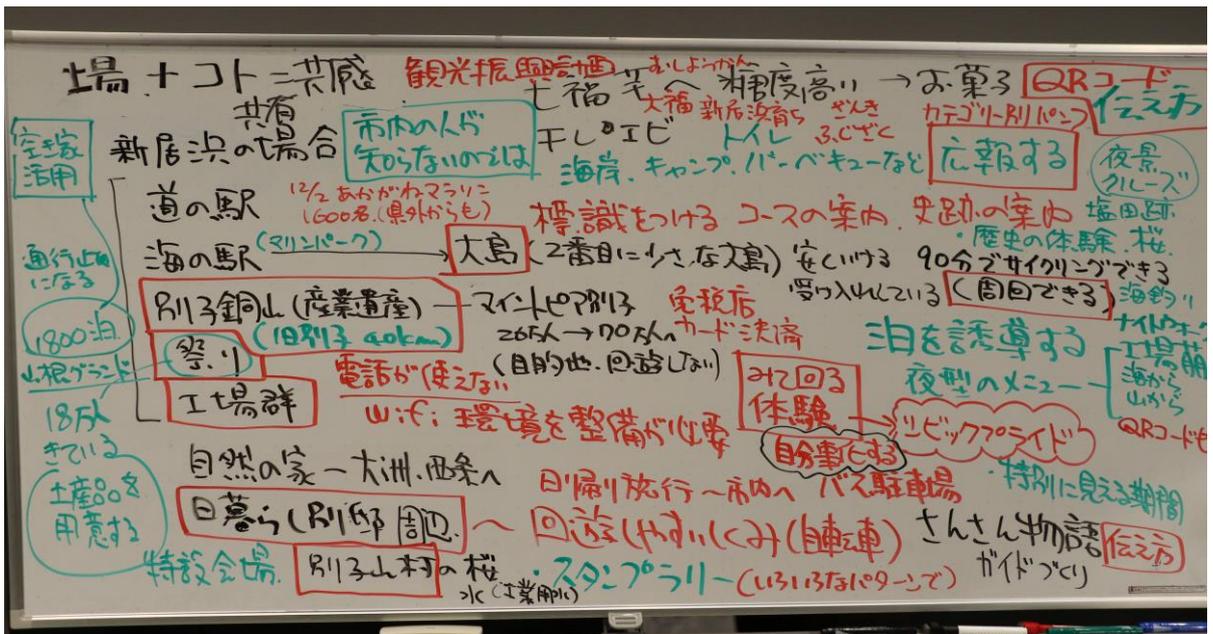
第一部 環境建設委員会

テーマ:「都市計画道路の見直しについて」ホワイトボード



第二部 市民経済委員会

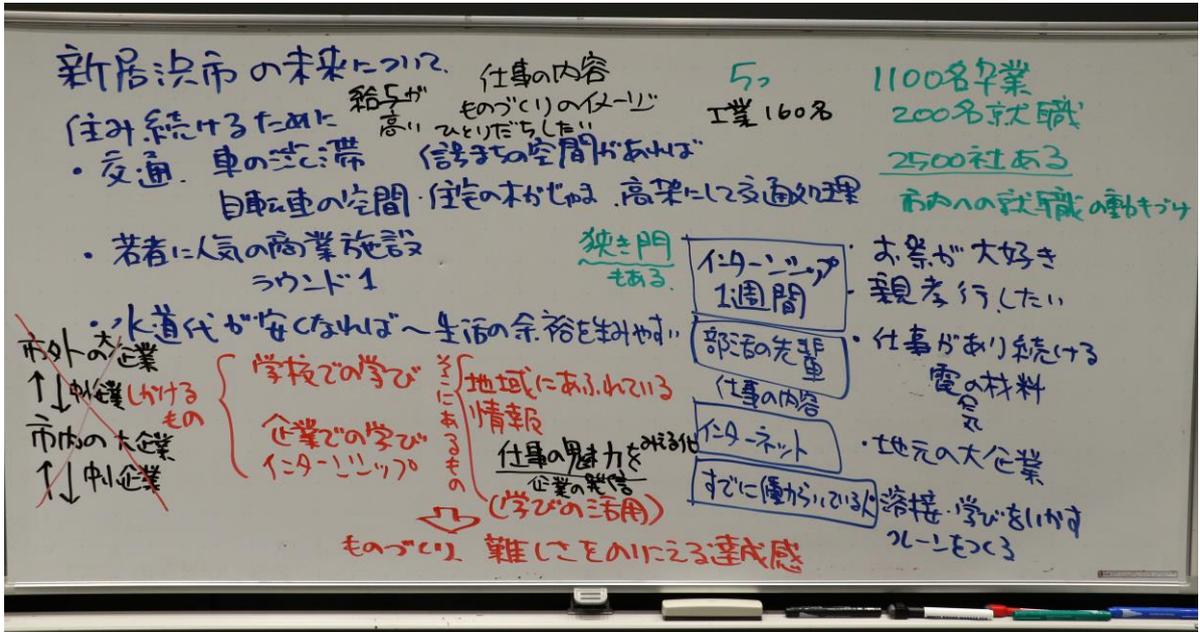
テーマ:「観光振興について」ホワイトボード



■ 11月21日 (水)

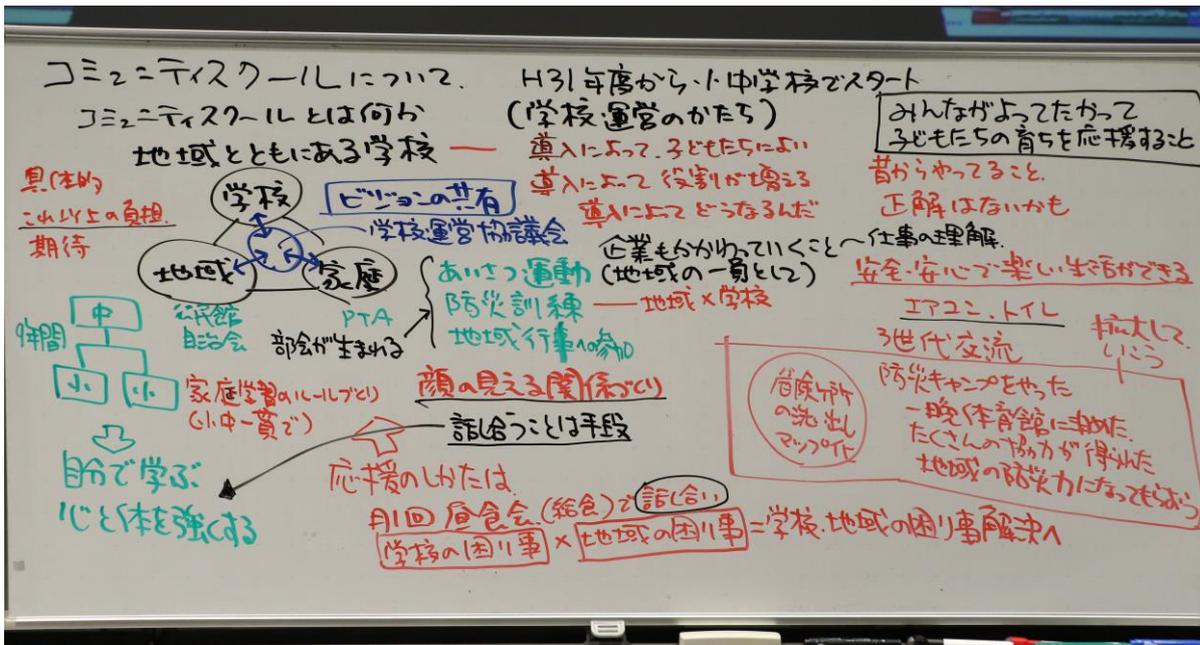
第一部 企画総務委員会

テーマ:「新居浜市の未来について ~若者の意見をきく~」ホワイトボード



第二部 福祉教育委員会

テーマ:「コミュニティスクールについて」ホワイトボード





新居浜市議会市民との意見交換会
議会フォーラム 2018 開催報告書

平成 30 年度

平成 30 年 12 月作成

新居浜市議会事務局

電話 0897-65-1321 (直通)

FAX 0897-65-1322